（様式第10）

愛医病管第　127　号

令和5 年　　10 月　　5 日

厚生労働大臣　　殿

開設者名　　学校法人愛知医科大学

理事長　祖父江　元

愛知医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和　　年度の業務に関して報告します。

1　開設者の住所及び氏名

住所	〒480-1195　愛知県長久手市岩作雁又1番地1
氏名	学校法人愛知医科大学

（注）　開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2　名称

愛知医科大学病院

3　所在の場所

〒480-1195　愛知県長久手市岩作雁又1番地1
電話（　0561　）　62　－　3311

4　診療科名

4－1　標榜する診療科名の区分

○	1	医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2	医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

（注）　上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2　標榜している診療科名

(1)内科

内科					有		
内科と組み合わせた診療科名等							
	1呼吸器内科		2消化器内科		3循環器内科		4腎臓内科
	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科
診療実績							

（注）　1「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

（2）外科

外科							有
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科		8小児外科
診療実績							
小児外科は，消化器外科で診療実績としていること。							

（注）　1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

（3）その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科		11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

（注）　標榜している診療科名に○印を付けること。

（4）歯科

歯科					有
歯科と組み合わせた診療科名					
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科
歯科の診療体制					

（注）　1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

（5）（1）～（4）以外でその他に標榜している診療科名

1	神経科	2	頭頸部・耳鼻いんこう科	3	形成外科	4	リハビリテーション科	5	病理診断科
6	疼痛緩和外科	7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

（注）　標榜している診療科名について記入すること。

5　病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
47				853	900

（単位：床）

6　医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	476	257	548.9
歯科医師	14	21	15.4
薬剤師	81	3	82.6
保健師	0	0	0
助産師	22	2	23.5
看護師	993	19	1005.6
准看護師	1	0	1
歯科衛生士	5	0	5
管理栄養士	21	0	21

職種	員数
看護補助者	1
理学療法士	43
作業療法士	16
視能訓練士	9
義肢装具士	0
臨床工学士	24
栄養士	0
歯科技工士	3
診療放射線技師	65

職種		員数
診療エックス線技師		0
臨床検査	臨床検査技師	67
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師		0
医療社会事業従事者		17
その他の技術員		42
事務職員		114
その他の職員		12

（注）　1　報告書を提出する年度の10月１日現在の員数を記入すること。
2　栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7　専門の医師数

専門医名	人数（人）	専門医名	人数（人）
総合内科専門医	58	眼科専門医	16
外科専門医	48	耳鼻咽喉科専門医	13
精神科専門医	6	放射線科専門医	18
小児科専門医	17	脳神経外科専門医	11
皮膚科専門医	4	整形外科専門医	16
泌尿器科専門医	5	麻酔科専門医	8
産婦人科専門医	15	救急科専門医	13
		合計	248

（注）　1　報告書を提出する年度の10月１日現在の員数を記入すること。
2　人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8　管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名　（ 道勇　学 ）　任命年月日　令和　3　年　4　月　1 日

・医療安全管理委員会委員

9　前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
１日当たり平均入院患者数	690.3　人	11.8　人	702.1　人
１日当たり平均外来患者数	2,519.6　人	107.8　人	2,627.4　人
１日当たり平均調剤数			4,085.3　剤
必要医師数			212.26　人
必要歯科医師数			6.86　人
必要薬剤師数			74.46　人
必要（准）看護師数			438.63　人

（注）　1「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2　入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3　外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4　調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5　必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	848.66 ㎡	鉄筋コンクリート	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	55 床 有 有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー	有 有 有
無菌病室等	［固定式の場合］	床面積	243.39 ㎡	病床数	15	床
	［移動式の場合］	台数	台			
医薬品情報管理室	［専用室の場合］	床面積	16.11 ㎡			
	［共用室の場合］	共用する室名				
化学検査室	566.47 ㎡	鉄筋コンクリート	（主な設備）	生化学自動分析装置，検体検査自動化システム		
細菌検査室	149.69 ㎡	鉄筋コンクリート	（主な設備）	微生物分類同定分析装置，自動血液培養器		
病理検査室	306.63 ㎡	鉄筋コンクリート	（主な設備）	ﾗｲｶBONDⅢ，ﾗｲｶASP6025，ｻｸﾗ ﾃｨｯｼｭｰﾃｯｸ ﾌﾟﾘｽﾞﾏ		
病理解剖室	108.24 ㎡	鉄筋コンクリート	（主な設備）	ﾊﾞｲｵﾊｻﾞｰﾄﾞ対策解剖台，臓器写真撮影装置，ﾎﾙﾏﾘﾝ希釈装置		
研究室	6,746.35 ㎡	鉄筋コンクリート	（主な設備）			
講義室	3,291.97 ㎡	鉄筋コンクリート	室数	20 室	収容定員	2,088 人
図書室	1,976.00 ㎡	鉄筋コンクリート	室数	2 室	蔵書数	96,300 冊程度

（注） 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	84.8 %	逆紹介率	59.8 %

算出根拠			
	A：紹介患者の数	19,995	人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	16,299	人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	3,110	人
	D：初診の患者の数	27,254	人

（注） 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
黒神聰	愛知学院大学 名誉教授	○	法律学に関する専門知識に基づいて，教育，研究又は業務を行っている者	無	1
金森俊輔	瀬戸旭医師会 会長		医療機関において医療安全に関する業務に従事した経験を持つ者又は医療安全に係る研究に従事した経験を有する者	無	1
鈴木孝美	長久手市・副市長		医療等の内容及び説明並びに同意文書が一般的に理解できる内容であるか等，医療を受ける立場から意見を述べることができる者	無	2
祖父江元	愛知医科大学		愛知医科大学学長	有	3
笠井謙次	愛知医科大学		愛知医科大学医学部長	有	3

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法 ホームページにて公表している。	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

1　承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数（人）
先進医療の種類の合計数	0
取扱い患者数の合計（人）	0

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
先進医療の種類の合計数	0
取扱い患者数の合計（人）	0

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

（注）1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

（注）2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること（当該医療が先進医療の場合についても記入すること）。

その他の高度医療の種類の合計数	
取扱い患者数の合計（人）	0

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	4	56	ベーチェット病	38
2	筋萎縮性側索硬化症	30	57	特発性拡張型心筋症	8
3	脊髄性筋萎縮症	3	58	肥大型心筋症	1
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	19	60	再生不良性貧血	31
6	パーキンソン病	165	61	自己免疫性溶血性貧血	2
7	大脳皮質基底核変性症	5	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	4
8	ハンチントン病	3	63	特発性血小板減少性紫斑病	83
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	65	原発性免疫不全症候群	3
11	重症筋無力症	81	66	IgA 腎症	32
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	22
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	64	68	黄色靭帯骨化症	9
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	15	69	後縦靭帯骨化症	40
15	封入体筋炎	7	70	広範脊柱管狭窄症	0
16	クロウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	31
17	多系統萎縮症	19	72	下垂体性ADH分泌異常症	10
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	47	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	3	74	下垂体性PRL分泌亢進症	16
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	2
21	ミトコンドリア病	6	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	2
22	もやもや病	13	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	21
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	98
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症（ホモ接合体）	2
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	30	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	53
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	30
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	5
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	5
34	神経線維腫症	20	89	リンパ脈管筋腫症	3
35	天疱瘡	18	90	網膜色素変性症	8
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	1
37	膿疱性乾癬（汎発型）	5	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性胆管炎	19
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	2
40	高安動脈炎	12	95	自己免疫性肝炎	8
41	巨細胞性動脈炎	6	96	クローン病	84
42	結節性多発動脈炎	9	97	潰瘍性大腸炎	180
43	顕微鏡的多発血管炎	32	98	好酸球性消化管疾患	6
44	多発血管炎性肉芽腫症	14	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	19	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	4	101	腸管神経節細胞僅少症	0
47	バージャー病	6	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	224	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	87	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	81	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	30	107	若年性特発性関節炎	7
53	シェーグレン症候群	20	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	21	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	6	110	ブラウ症候群	0

（注）「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	167	マルファン症候群	0
113	筋ジストロフィー	4	168	エーラス・ダンロス症候群	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	169	メンケス病	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
116	アトピー性脊髄炎	0	171	ウィルソン病	1
117	脊髄空洞症	1	172	低ホスファターゼ症	0
118	脊髄髄膜瘤	0	173	VATER症候群	0
119	アイザックス症候群	2	174	那須・ハコラ病	0
120	遺伝性ジストニア	1	175	ウィーバー症候群	0
121	神経フェリチン症	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	177	ジュベール症候群関連疾患	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1	179	ウィリアムズ症候群	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	180	ATR－X症候群	0
126	ペリー症候群	0	181	クルーゾン症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	182	アペール症候群	0
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	183	ファイファー症候群	0
129	痙攣重積型（二相性）急性脳症	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	185	コフィン・シリス症候群	0
131	アレキサンダー病	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	187	歌舞伎症候群	0
133	メビウス症候群	0	188	多脾症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	189	無脾症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
136	片側巨脳症	0	191	ウェルナー症候群	1
137	限局性皮質異形成	0	192	コケイン症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	193	プラダー・ウィリ症候群	1
139	先天性大脳白質形成不全症	0	194	ソトス症候群	0
140	ドラベ症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	197	1p36欠失症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	198	4p欠失症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	199	5p欠失症候群	0
145	ウエスト症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
146	大田原症候群	0	201	アンジェルマン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	202	スミス・マギニス症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	203	22q11.2欠失症候群	1
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	204	エマヌエル症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
151	ラスムッセン脳炎	0	206	脆弱X症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	208	修正大血管転位症	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	209	完全大血管転位症	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	210	単心室症	0
156	レット症候群	0	211	左心低形成症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	212	三尖弁閉鎖症	0
158	結節性硬化症	2	213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0
159	色素性乾皮症	0	214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0
160	先天性魚鱗癬	0	215	ファロー四徴症	0
161	家族性良性慢性天疱瘡	0	216	両大血管右室起始症	0
162	類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む。）	11	217	エプスタイン病	0
163	特発性後天性全身性無汗症	32	218	アルポート症候群	2
164	眼皮膚白皮症	0	219	ギャロウェイ・モワト症候群	0
165	肥厚性皮膚骨膜症	0	220	急速進行性糸球体腎炎	0

（注）「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	276	軟骨無形成症	0
222	一次性ネフローゼ症候群	33	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	1
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	278	巨大リンパ管奇形（頚部顔面病変）	0
224	紫斑病性腎炎	3	279	巨大静脈奇形（頚部口腔咽頭びまん性病変）	2
225	先天性腎性尿崩症	0	280	巨大動静脈奇形（頚部顔面又は四肢病変）	3
226	間質性膀胱炎（ハンナ型）	1	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	5
227	オスラー病	2	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
228	閉塞性細気管支炎	0	283	後天性赤芽球癆	2
229	肺胞蛋白症（自己免疫性又は先天性）	11	284	ダイアモンド・ブラックファン貧血	0
230	肺胞低換気症候群	1	285	ファンコニ貧血	0
231	α1－アンチトリプシン欠乏症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
232	カーニー複合	0	287	エプスタイン症候群	0
233	ウォルフラム症候群	0	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	1
234	ペルオキシソーム病（副腎白質ジストロフィーを除く。）	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
235	副甲状腺機能低下症	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	291	ヒルシュスプルング病（全結腸型又は小腸型）	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	292	総排泄腔外反症	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	5	293	総排泄腔遺残	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
240	フェニルケトン尿症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
241	高チロシン血症1型	0	296	胆道閉鎖症	3
242	高チロシン血症2型	0	297	アラジール症候群	0
243	高チロシン血症3型	0	298	遺伝性膵炎	0
244	メープルシロップ尿症	0	299	嚢胞性線維症	0
245	プロピオン酸血症	0	300	IgG4関連疾患	21
246	メチルマロン酸血症	0	301	黄斑ジストロフィー	1
247	イソ吉草酸血症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
249	グルタル酸血症1型	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
250	グルタル酸血症2型	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
251	尿素サイクル異常症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	89
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	307	カナバン病	0
253	先天性葉酸吸収不全	0	308	進行性白質脳症	0
254	ポルフィリン症	0	309	進行性ミオクローヌスてんかん	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	310	先天異常症候群	0
256	筋型糖原病	0	311	先天性三尖弁狭窄症	0
257	肝型糖原病	1	312	先天性僧帽弁狭窄症	0
258	ガラクトース－１－リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	313	先天性肺静脈狭窄症	0
259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0	314	左肺動脈右肺動脈起始症	0
260	シトステロール血症	0	315	ネイルパテラ症候群（爪膝蓋骨症候群）／LMX1B関連腎症	0
261	タンジール病	0	316	カルニチン回路異常症	0
262	原発性高カイロミクロン血症	1	317	三頭酵素欠損症	0
263	脳腱黄色腫症	0	318	シトリン欠損症	0
264	無βリポタンパク血症	0	319	セピアプテリン還元酵素（SR）欠損症	0
265	脂肪萎縮症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール（GPI）欠損症	0
266	家族性地中海熱	2	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
267	高IgD症候群	0	322	β―ケトチオラーゼ欠損症	0
268	中條・西村症候群	0	323	芳香族L－アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
270	慢性再発性多発性骨髄炎	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
271	強直性脊椎炎	11	326	大理石骨病	0
272	進行性骨化性線維異形成症	0	327	特発性血栓症（遺伝性血栓性素因によるものに限る。）	2
273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0	328	前眼部形成異常	0
274	骨形成不全症	0	329	無虹彩症	0
275	タナトフォリック骨異形成症	0	330	先天性気管狭窄症／先天性声門下狭窄症	0

（注）「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
331	特発性多中心性キャッスルマン病	11			
332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0			
333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0			
334	脳クレアチン欠乏症候群	0			
335	ネフロン癆	0			
336	家族性低βリポタンパク血症1（ホモ接合体）	0			
337	ホモシスチン尿症	0			
338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0			

（注）「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	115
合計患者数（人）	2,278

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（基本診療料）

施設基準の種類	施設基準の種類
・情報通信機器を用いた診療に係る基準	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・歯科外来診療環境体制加算2	・特定機能病院入院基本料
・救急医療管理加算	・超急性期脳卒中加算
・診療録管理体制加算2	・医師事務作業補助体制加算2
・急性期看護補助体制加算	・看護職員夜間配置加算
・療養環境加算	・重症者等療養環境特別加算
・無菌治療室管理加算1	・緩和ケア診療加算
・精神科身体合併症管理加算	・精神科リエゾンチーム加算
・摂食障害入院医療管理加算	・栄養サポートチーム加算
・医療安全対策加算1	・感染対策向上加算1
・患者サポート体制充実加算	・報告書管理体制加算
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・ハイリスク妊娠管理加算
・ハイリスク分娩管理加算	・呼吸ケアチーム加算
・病棟薬剤業務実施加算1	・病棟薬剤業務実施加算2
・データ提出加算	・入退院支援加算
・せん妄ハイリスク患者ケア加算	・精神疾患診療体制加算
・精神科急性期医師配置加算	・排尿自立支援加算
・地域医療体制確保加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・救命救急入院料3	・救命救急入院料4
・小児入院医療管理料2	・看護職員処遇改善評価料65
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療料）

施設基準の種類	施設基準の種類
・外来栄養食事指導料の注2に規定する基準	・外来栄養食事指導料の注3に規定する基準
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・糖尿病合併症管理料
・がん性疼痛緩和指導管理料	・がん患者指導管理料イ
・がん患者指導管理料ロ	・がん患者指導管理料ハ
・がん患者指導管理料ニ	・外来緩和ケア管理料
・移植後患者指導管理料（臓器移植後）	・移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後）
・糖尿病透析予防指導管理料	・婦人科特定疾患治療管理料
・腎代替療法指導管理料	・下肢創傷処置管理料
・院内トリアージ実施料	・外来放射線照射診療料
・外来腫瘍化学療法診療料1	・連携充実加算
・ニコチン依存症管理料	・がん治療連携計画策定料
・がん治療連携指導料	・外来排尿自立指導料
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・ハイリスク妊産婦連携指導料2
・肝炎インターフェロン治療計画料	・こころの連携指導料（Ⅱ）
・薬剤管理指導料	・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
・医療機器安全管理料1	・医療機器安全管理料2
・医療機器安全管理料（歯科）	・精神科退院時共同指導料1及び2
・歯科治療時医療管理料	・禁煙治療補助システム指導管理加算
・在宅患者歯科治療時医療管理料	・救急搬送診療料の注4に規定する重症患者搬送加算
・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）及び皮下連続式グルコース測定	・持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）
・遺伝学的検査	・骨髄微小残存病変量測定
・BRCA1／2遺伝子検査	・がんゲノムプロファイリング検査
・先天性代謝異常症検査	・抗アデノ随伴ウイルス9型（AAV9）抗体
・抗HLA抗体（スクリーニング検査）及び抗HLA抗体（抗体特異性同定検査）	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）

・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・検体検査管理加算（Ⅳ）
・国際標準検査管理加算	・遺伝カウンセリング加算
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・胎児心エコー法
・ヘッドアップティルト試験	・人工膵臓検査、人工膵臓療法
・長期継続頭蓋内脳波検査	・単線維筋電図
・終夜睡眠ポリグラフィー（安全精度管理下で行うもの）	・脳波検査判断料1
・神経学的検査	・補聴器適合検査
・ロービジョン検査判断料	・コンタクトレンズ検査料1
・小児食物アレルギー負荷検査	・内服・点滴誘発試験
・CT透視下気管支鏡検査加算	・有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査
・精密触覚機能検査	・画像診断管理加算3
・ポジトロン断層撮影	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・CT撮影及びMRI撮影	・冠動脈CT撮影加算
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・外傷全身CT加算
・心臓MRI撮影加算	・乳房MRI撮影加算
・小児鎮静下MRI撮影加算	・頭部MRI撮影加算
・全身MRI撮影加算	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・外来化学療法加算1	・無菌製剤処理料
・心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）	・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
・がん患者リハビリテーション料	・リンパ浮腫複合的治療料
・歯科口腔リハビリテーション料2	・経頭蓋磁気刺激療法
・療養生活環境整備指導加算	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）
・医療保護入院等診療料	・静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）
・硬膜外自家血注入	・人工腎臓
・導入期加算3及び腎代替療法実績加算	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
・手術用顕微鏡加算	・CAD／CAM冠及びCAD／CAMインレー
・歯科技工加算1及び2	・センチネルリンパ節加算

・皮膚移植術（死体）	・自家脂肪注入
・組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）	・骨移植術（軟骨移植術を含む。）（同種骨移植（非生体）（同種骨移植（特殊なものに限る。）））
・骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）	・後縦靱帯骨化症手術（前方進入によるもの）
・椎間板内酵素注入療法	・腫瘍脊椎骨全摘術
・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・癒着性脊髄くも膜炎手術（脊髄くも膜剥離操作を行うもの）
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術（便失禁）	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術（過活動膀胱）
・角結膜悪性腫瘍切除術	・緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
・緑内障手術（緑内障手術（流出路再建術（眼内法）及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）	・緑内障手術（濾過胞再建術（needle法））
・網膜再建術	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・植込型骨導補聴器（直接振動型）植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ｖ型（拡大副鼻腔手術）及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術（頭蓋底郭清、再建を伴うもの）
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。）	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科）	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）、内視鏡下副甲状腺（上皮小体）腺腫過形成手術
・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検（併用）	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検（単独）
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・肺悪性腫瘍手術（壁側・臓側胸膜全切除（横隔膜、心膜合併切除を伴うもの）に限る。）
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（気管支形成を伴う肺切除）
・内視鏡下筋層切開術	・食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、等
・経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）	・胸腔鏡下弁形成術
・胸腔鏡下弁置換術	・経カテーテル弁置換術（経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術）
・経皮的僧帽弁クリップ術	・不整脈手術左心耳閉鎖術（胸腔鏡下によるもの）
・経皮的中隔心筋焼灼術	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）	・両心室ペースメーカー移植術（経静脈電極の場合）及び両心室ペースメーカー交換術（経静脈電極の場合）

・植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの）、植込型除細動器交換術（その他のもの）及び経静脈電極抜去術	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）
・大動脈バルーンパンピング法（IABP法）	・経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）
・補助人工心臓	・経皮的下肢動脈形成術
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方）	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、等
・腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併施するもの）	・腹腔鏡下胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））
・腹腔鏡下噴門側胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下噴門側胃切除術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））	・腹腔鏡下胃全摘術（単純全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））
・腹腔鏡下胃縮小術（スリーブ状切除によるもの）	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢床切除を伴うもの）	・胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
・腹腔鏡下肝切除術	・生体部分肝移植術
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・内視鏡的小腸ポリープ切除術	・腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
・腹腔鏡下腎盂形成手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・同種死体腎移植術
・生体腎移植術	・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術（経尿道）
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・膀胱頸部形成術（膀胱頸部吊上術以外）、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術（鼠径部切開によるもの）	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
・腹腔鏡下仙骨膣固定術	・腹腔鏡下仙骨膣固定術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・腹腔鏡下腟式子宮全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る。）	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・体外式膜型人工肺管理料	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術

・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。）	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術）
・輸血管理料Ⅰ	・輸血適正使用加算
・コーディネート体制充実加算	・自己生体組織接着剤作成術
・同種クリオプレシピテート作製術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・歯周組織再生誘導手術
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・歯根端切除手術の注3
・麻酔管理料（Ⅰ）	・麻酔管理料（Ⅱ）
・放射線治療専任加算	・外来放射線治療加算
・高エネルギー放射線治療	・一回線量増加加算
・強度変調放射線治療（IMRT）	・画像誘導放射線治療（IGRT）
・体外照射呼吸性移動対策加算	・定位放射線治療
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・保険医療機関間の連携による病理診断
・病理診断管理加算1	・病理診断管理加算2
・悪性腫瘍病理組織標本加算	・口腔病理診断管理加算2
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術（内視鏡手術支援機器を用いる場合）

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療（当該病院において提供していたものに限る。）から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	臨床科病理症例検討会 44回 キャンサーボード 16回 CPC 8回	
剖検の状況	剖検症例数（例）	14
	剖検率（%）	1.8

（注） 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
未感染肝細胞への感染制御によりHBV排除を可能にする新規薬剤開発	伊藤清顕	肝胆膵内科	75,400,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
B型肝炎ウイルス侵入機構の解明と侵入阻害剤による感染制御	伊藤清顕	肝胆膵内科	6,240,000	○補 委	独立行政法人日本学術振興会
胆管癌に対する新規局所治療法の開発	井上匡央	肝胆膵内科	1,430,000	○補 委	独立行政法人日本学術振興会
胆管バルーンアブレーションシステムの開発	井上匡央	肝胆膵内科	45,500,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
機械感受性チャネルPiezo1とメカノセンサーを標的とした呼吸器疾患の病態解明	伊藤理	呼吸器・アレルギー内科	1,040,000	○補 委	独立行政法人日本学術振興会
家族性先端巨大症罹患アスリートの発掘　ー新規原因遺伝子同定への学際的アプローチー	森田博之	内分泌・代謝内科	520,000	○補 委	独立行政法人日本学術振興会
疾患iPS細胞を活用した液性因子による運動ニューロン疾患の早期病態解明	岡田洋平	加齢医科学研究所 神経iPS細胞研究部門	0	○補 委	独立行政法人日本学術振興会
疾患iPS細胞を用いた神経筋接合部を標的とした運動ニューロン疾患の病態解明	岡田洋平	加齢医科学研究所 神経iPS細胞研究部門	4,680,000	○補 委	独立行政法人日本学術振興会
CAGリピート編集によるポリグルタミン病の根治的治療法の開発	岡田洋平	加齢医科学研究所 神経iPS細胞研究部門	0	○補 委	独立行政法人日本学術振興会
疾患特異的iPS細胞を用いたポリグルタミン病創薬スクリーニングシステムの開発	丹羽淳一	脳卒中センター	0	○補 委	独立行政法人日本学術振興会
疾患iPS細胞を用いた球脊髄性筋萎縮症の骨格筋病態の解明	道勇学	内科学講座（神経内科）	0	○補 委	独立行政法人日本学術振興会
iPS細胞を用いた運動ニューロン疾患の神経筋シナプス機能の解析	丹羽淳一	脳卒中センター	1,690,000	○補 委	独立行政法人日本学術振興会
シングルセルを活用した運動ニューロン疾患の新規病態関連因子探索システムの構築	伊藤卓治	加齢医科学研究所 神経iPS細胞研究部門	1,690,000	○補 委	独立行政法人日本学術振興会
疾患iPS細胞を用いた運動ニューロン疾患の神経・筋相互作用分子基盤の解明	伊藤卓治	加齢医科学研究所 神経iPS細胞研究部門	0	○補 委	独立行政法人日本学術振興会

疾患iPS細胞による神経・筋共培養を活用した神経変性疾患の病態解析システムの開発	伊藤卓治	加齢医科学研究所 神経iPS細胞研究部門	0	○補 委	独立行政法人日本学術振興会
患者神経細胞で高発現する早期病態因子に着目した球脊髄性筋萎縮症の病態解析	小野寺一成	加齢医科学研究所 神経iPS細胞研究部門	2,340,000	○補 委	独立行政法人日本学術振興会
大規模疾患レジストリとiPS細胞技術を活用した筋萎縮性側索硬化症に対する新規治療薬開発	岡田洋平	加齢医科学研究所 神経iPS細胞研究部門	19,500,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
筋萎縮性側索硬化症克服のためのDeep-Phenotyping の統合解析を通じた治療開発研究	岡田洋平	加齢医科学研究所 神経iPS細胞研究部門	20,150,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
TDP-43を標的とした筋萎縮性側索硬化症の分子病態解明と制御	岡田洋平	加齢医科学研究所 神経iPS細胞研究部門	2,600,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ヒト特異的RNA代謝異常とシナプス形態に基づく筋萎縮性側索硬化症の病態解明,治療法研究	岡田洋平	加齢医科学研究所 神経iPS細胞研究部門	3,120,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
iPS細胞を用いた希少疾患の研究促進のための研究者マッチング	岡田洋平	加齢医科学研究所 神経iPS細胞研究部門	20,800,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
神経・筋相互作用を標的とした運動神経疾患の病態解明と治療開発	岡田洋平	加齢医科学研究所 神経iPS細胞研究部門	39,000,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
孤発性筋萎縮性側索硬化症の双方向トランスレーショナル研究による病態介入標的の同定と核酸医薬の開発研究	岡田洋平	加齢医科学研究所 神経iPS細胞研究部門	6,500,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
筋萎縮性側索硬化症のmissing heritabilityに関わる遺伝子の探索	中村亮一	内科学講座（神経内科）	1,430,000	○補 委	独立行政法人日本学術振興会
筋萎縮性側索硬化症に関連する構造多型と病態メカニズムの解明	中村亮一	内科学講座（神経内科）	1,000,000	○補 委	公益財団法人堀科学芸術振興財団
パーキンソン病治療効果の客観的判定手段としての脳血流SPECT検査の有用性	田口　宗太郎	パーキンソン病総合治療センター	0	○補 委	独立行政法人日本学術振興会
内皮細胞Glycocalyxをターゲットとした腎疾患の新たな治療戦略の確立	伊藤恭彦	腎臓・リウマチ膠原病内科	1,560,000	○補 委	独立行政法人日本学術振興会
フルクトース代謝を標的とした糖尿病性腎臓病の病態解明と新規治療法の開発	石本卓嗣	腎臓・リウマチ膠原病内科	1,300,000	○補 委	独立行政法人日本学術振興会

腹膜透析におけるガス状伝達物質を用いた新たな腹膜劣化予防・治療法の開発	神谷圭介	腎臓・リウマチ膠原病内科	1,300,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
内皮細胞障害に着目したCKD血管石灰化メカニズムの解析と標的治療の確立	伊藤真弓	腎臓・リウマチ膠原病内科	1,040,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
ADAMTS13遺伝子多型ゲノム編集血管内皮細胞の作製と新規白血病治療法の探索	高見　昭良	血液内科	1,300,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
ゲノム編集によるFLT3変異改変ヒト白血病細胞の作製と新規治療法の探索	花村　一朗	血液内科	0	○補委	独立行政法人日本学術振興会
PVT1 RNAに着目した新たなリンパ腫の分子病態解明と新規標的治療への応用	水野　昌平	血液内科	1,690,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
ヘムオキシゲナーゼ1遺伝子多型ゲノム編集造血幹細胞による生体防御機構の網羅的解析	堀尾　知弘	血液内科	1,950,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
CRISPR/Cas9システムを用いたFAM46Cのゲノム編集および表現型解析	金杉　丈	血液内科	1,430,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
糖尿病神経障害・糖尿病足病変の診断ガイドラインならびに管理法の確立	中村　二郎	糖尿病内科	5,460,000	○補委	厚生労働省
糖尿病性虚血性疾患に対する体性幹細胞由来分泌因子を用いた治療法の開発	神谷　英紀	糖尿病内科	910,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
自己免疫性モノアミン合成障害による新規低血圧疾患概念の確立 研究課題	恒川　新	糖尿病内科	1,690,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
糖尿病性多発神経障害におけるinsulin-Notch連関の異常と再生機構の破綻	姫野　龍仁	糖尿病内科	1,690,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
CIDE-A – AMPK経路を標的とした小胞体ストレス関連疾患治療薬の探索	森下　啓明	糖尿病内科	1,040,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
アミノ酸利用不均衡と異常スフィンゴ脂質蓄積が糖尿病性多発神経障害に及ぼす影響	下田　博美	糖尿病内科	1,430,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
糖尿病性多発神経障害におけるO-GlcNAc修飾の役割の解明 研究課題	中村　二郎	糖尿病内科	1,300,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
術前からEMSを用いた膵癌サルコペニア予防プログラムの多施設共同開発	深見保之	消化器外科	2,860,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
静脈弁の機能に着目した一次性下肢静脈瘤予防法の開発	三岡 裕貴	血管外科	1,560,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会

ICG蛍光マーキングによる非触知乳癌に対する手術ナビゲーションシステムの開発	中野正吾	乳腺・内分泌外科	2,080,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
抗ドナーHLA抗体産生を決定する濾胞ヘルパーT細胞クロノタイプの同定とその制御	小林孝彰	腎移植外科	7,150,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
治療から予防へ：エピトープ／パラトープ解析に基づく革新的免疫制御法の創出	小林孝彰	腎移植外科	5,070,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
骨強度の観点から女性アスリートの妊娠・出産後の競技復帰を促進するための基礎的研究	松下　宏	産科・婦人科	780,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
妊娠高血圧腎症妊婦における産後蛋白尿の推移と診断基準についての検討	渡辺員支	周産期母子医療センター	200,000	○補委	一般社団法人日本妊娠高血圧学会学術研究
妊娠高血圧腎症における血中アルブミンの抗酸化作用について	斉藤拓也	産科・婦人科	500,000	○補委	一般財団法人　愛知健康増進財団
妊娠高血圧腎症妊婦における尿中蛋白排泄機序の解明および将来の慢性腎臓病発症の予測	岡本知士	産科・婦人科	1,000,000	○補委	公益財団法人堀科学芸術振興財団研究費助成事業
大腸がん少数個腹部リンパ節再発に対する逐次免疫療法併用・寡分割放射線治療の標準化	伊藤　誠	放射線科	650,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
抗菌・鎮痛性能を有すX線可視化高吸水性ポリマー製球状物質を用いた血管塞栓術の確立	成田晶子	放射線科	520,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
四肢の動静脈奇形に対する4D画像を用いた血流解析による治療効果判定法の確立	北川晃	放射線科	1,560,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
RNAiでの脳水チャネル調節と低酸素プレコンディショニングによる脳神経保護効果	藤田義人	周術期集中治療部	1,690,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
脳水チャネル調節での脳浮腫抑制と低酸素プレコンディショニングによる脳神経保護	石原亮太	麻酔科	780,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
Regulation of inflammatory response by antonomic nervous system in macrophages	馮　国剛	麻酔科	1,560,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
細胞外微小環境の制御による次世代のリンパ節移植術の開発	古川洋志	形成外科	1,040,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会
敗血症病態における血小板減少症への補体系活性化の関与とその治療戦略の開発	渡邉栄三	救命救急科	1,300,000	○補委	独立行政法人日本学術振興会

災害時現場活動における救助医療連携で必要となる狭隘空間における輸液方法と投与速度の検証	苛原隆之	救命救急科	1,000,000	補 委	一般財団法人救急振興財団
急性呼吸促迫症候群に対する造血幹細胞移植：炎症制御と血管再生の試み	加納秀記	救急診療部	2,600,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究	三鴨廣繁	感染症科	7,000,000	補 委	厚生労働省
前立腺導管癌の分子生物学的特徴及び治療予測への人工知能の応用	都築豊徳	病理診断学講座	520,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
リンパ球豊富型およびリンパ球減少型古典的ホジキンリンパ腫の発生機構の解明	佐藤啓	病理診断学講座	1,040,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
腎細胞癌におけるTGF-β発現の意義の解析	高原大志	病理診断学講座	1,820,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
cT1~3N0M0膀胱癌を対象としたAtezolizumab併用放射線療法に関する第Ⅱ相医師主導他施設共同治験	都築豊徳	病理診断学講座	165,000	補 委	国立大学法人筑波大学
経尿道的膀胱腫瘍切除術(TURBT)時の筋層非浸潤性膀胱癌(NMIBC)の患者を対象としたSPP-005の光線力学診断の用法変更に関する第Ⅲ相試験における病理判定	都築豊徳	病理診断学講座	1,254,000	補 委	SBIファーマ株式会社
未治療日本人転移性腎細胞癌患者を対象としたニボルマブ・イピリムマブ併用療法の有効性と安全性に関する前向き観察研究(J-ENCORE)	都築豊徳	病理診断学講座	148,500	補 委	メビックス株式会社
マイクロ流体デバイスを用いた血中循環がん細胞クラスター抽出法の開発	各務秀明	歯科口腔外科	1,300,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
脂肪組織由来間葉系幹細胞-造血幹細胞における代謝経路解析：抗加齢作用に注目して	中山享之	中央臨床検査部	1,300,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
血友病関節症の解明と新規治療法開発：骨芽細胞、MSC、メトホルミンに着目して	小川実加	中央臨床検査部	1,040,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
血友病関節症治療におけるアンメットニーズの解決を目指して	小川実加	中央臨床検査部	1,000,000	補 委	公益財団法人堀科学芸術振興財団
糖尿病性神経障害の非侵襲性早期診断法の確立：超音波を用いた末梢神経の形態解析	柴田由加	中央臨床検査部	470,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会

糖尿病性神経障害(DPN)の診断法と療養指導手法の確立	柴田由加	中央臨床検査部	400,000	補 委	日本糖尿病協会
ホルモンの変調に起因する運動器の傷みを解明する多面的集学研究	井上真輔	疼痛緩和外科・いたみセンター	10,270,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
若年慢性疼痛における睡眠週間の調査およびアセスメントツールとしての睡眠検査の検討	尾張慶子	疼痛緩和外科・いたみセンター	520,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
神経機能評価による三叉神経痛・三叉神経ニューロパチーの治療予測の確立	西須大徳	疼痛緩和外科・いたみセンター	3,120,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
就労制限を来たした慢性疼痛患者の就労支援に寄与する多角的包括的研究	井上真輔	疼痛緩和外科・いたみセンター	10,000,000	補 委	厚生労働科学研究費
情動による多感覚システム統合機構解明と革新的疼痛治療法開発 Study of the mechanism for integration of multi-sensing systems by emotion and the development of innovative therapy for pain	牛田享宏	疼痛緩和外科・いたみセンター	5,980,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発法人
SGA児の血小板減少の機序解明と血小板制御による神経発達改善への治療戦略	竹下　覚	周産期母子医療センター	1,170,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
女性ホルモンが非浸潤性肺腺癌に及ぼす影響:新たな肺癌治療法の確立を目指して	矢野智紀	臨床腫瘍センター腫瘍外科	0	補 委	独立行政法人日本学術振興会
非喫煙者肺癌の浸潤増殖にエストロゲンが与える影響の解明:新たな肺癌治療法の探索	矢野智紀	臨床腫瘍センター腫瘍外科	780,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
がん悪液質の日本人における診断基準の確立	森 直治	緩和ケアセンター	780,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
細菌由来メンブレンヴェシクルの高感度検出法の開発と慢性炎症性血管疾患からの同定	宮﨑英隆	眼形成・眼窩・涙道外科	520,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
頸部リンパ節における腫瘍免疫環境の解明-免疫学的頸部郭清術の確立を目指して	小川徹也	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,690,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
320列ADCTを用いた下咽頭癌術後嚥下機能障害の解析	丸尾貴志	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	780,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会

計 86件

（注） 1　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申 請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、〇印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Ogasawara N, Funaki Y, Kasugai K, et al.	消化管内科	Overlap Between Constipation and Gastroesophageal Reflux Disease in Japan: Result From a n Internet Survey.	J Neurogastroenterol Motil. 2022 Apr 30;28(2):291-302	Original Article
2	Adachi K, Tashiro T, Kato M, et al.	消化管内科	A case report of contrast-enhanced harmonic ultrasonography for the diagnosis of an esophageal duplication cyst.	DEN Open. 2023 Mar 17:3(1) (オンライン)	Case report
3	Adachi K, Sugiyama T, Yamaguchi Y, et al.	消化管内科	A case of ulcerative colitis-related postoperative enteritis treated with granulocyte and monocyte apheresis.	Clin J Gastroenterol. 2023 Feb:16(1):43-47.	Case report
4	Yamaguchi Y, Miwa T, Murakami R, et al.	消化管内科	A case report of olmesartan-associated sprue-like enterophathy: Diagnosis and healing confirmed by capsule endoscopy.	DEN Open. 2022 Jun 18;3(1) (オンライン)	Case report
5	Adachi K, Kato S, Koshino A, et al.	消化管内科	A Vonoprazan, Clarithromycin, and Metronidazole Regimen as Helicobacter pylori Eradication Therapy for Patients with Penicillin Allergy in Light of Clarithromycin Resistance.	Intern Med. 2023 Jan 12. (オンライン)	Original Article
6	Inoue T, Ibusuki M, Kitano R, et al.	肝胆膵内科	Safety and Efficacy of Gemcitabine Plus Nab-Paclitaxel for Metastatic Pancreatic Cancer Patients Undergoing Biliary Stent Placement.	Dig Dis Sci. 2022;67(7):3298-3304.	Original Article
7	Inoue T, Kitano R, Yoneda M.	肝胆膵内科	Troubleshooting of reinterventions after stent-by-stent placement for malignant hilar biliary obstruction (with videos).	Hepatobiliary Pancreat Dis Int. 2022;21(5):500-502.	Case report

8	Inoue T, Ibusuki M, Kitano R, et al.	肝胆膵内科	Endobiliary Radiofrequency Ablation Using a Short-Type Balloon Enteroscope in Patients with Surgically Altered Anatomy.	Dig Dis Sci. 2022;67(8):4181-4187.	Original Article
9	Inoue T, Ibusuki M, Kitano R, et al.	肝胆膵内科	Scissor-type knife precut in balloon enteroscopy-assisted ERCP for patients with difficult biliary cannulation and surgically altered anatomy (with video).	Gastrointest Endosc. 2022;95(4):717-722.	Original Article
10	Inoue T, Ibusuki M, Kitano R, et al.	肝胆膵内科	Comparison of the removal ability of basket catheters for small bile duct stones impacted in the corner pocket of the lower bile duct.	Endoscopy. 2022;54(10):987-992.	Original Article
11	Inoue T, Ibusuki M, Kitano R, et al.	肝胆膵内科	Usefulness of red dichromatic imaging for post-endoscopic sphincterotomy bleeding.	Endoscopy. 2022;54(S02):E778-E779.	Case report
12	Inoue T, Ibusuki M, Kitano R, et al.	肝胆膵内科	Combined stent-by-stent and stent-in-stent deployment for malignant hilar biliary obstruction using a novel metal stent with flexible cell and slim delivery.	Endosc Int Open. 2022;10(6):E917-E918.	Case report
13	Inoue T, Ibusuki M, Yoneda M.	肝胆膵内科	Pseudoaneurysm after endoscopic biliary radiofrequency ablation for malignant biliary stricture.	J Gastrointestin Liver Dis. 2022;31(2):161.	Case report
14	Inoue T, Ibusuki M, Kitano R, et al.	肝胆膵内科	Combined stent-by-stent and stent-in-stent biliary metal stent deployment using a forward-oblique viewing echoendoscope in surgically altered anatomy.	Endosc Int Open. 2022;10(7):E1020-E1021.	Case report
15	Inoue T, Ibusuki M, Kitano R, et al.	肝胆膵内科	Novel J-tip guidewire for reintervention after stent-by-stent placement in patients with malignant hilar biliary obstruction.	Endosc Int Open. 2022;10(9):E1291-E1296.	Case report

16	Sakamoto K, Ito K, Yotsuyanagi H, et al.	肝胆膵内科	Trends of hepatitis B virus genotype distribution in chronic hepatitis B patients in Japan.	J Gastroenterol. 2022 Dec;57(12):971-980.	Original Article
17	Ito K, Sumida Y, Nakade Y, et al.	肝胆膵内科	Mac-2 binding protein glycosylation isomer, the FIB-4 index, and a combination of the two as predictors of non-alcoholic steatohepatitis.	PLoS One. 2022 Nov 10;17(11):e0277380.(オンライン)	Original Article
18	Inoue T, Ibusuki M, Kitano R, et al.	肝胆膵内科	Single-operator metal stent deployment for malignant biliary obstruction using a novel thumbwheel delivery system.	Endoscopy. 2022 Jun;54(6):E252-E253.	Case report
19	Inoue T, Kutsumi H, Ibusuki M, et al.	肝胆膵内科	Examining the efficacy and safety of endobiliary radiofrequency ablation for ingrowth occlusion after metal stent placement using a bovine model.	Int J Hyperthermia. 2022;39(1):1415-1420.	Original Article
20	Inoue T, Ibusuki M, Kitano R, et al.	肝胆膵内科	Endoscopic radiofrequency ablation for ingrowth occlusion after bilateral metal stent placement for malignant hilar biliary obstruction: a prospective pilot study.	Gastrointest Endosc. 2023;97(2):282-290.e1.	Original Article
21	Inoue T, Ibusuki M, Kutsumi H.	肝胆膵内科	Novel non-slip banded balloon catheter for endoscopic papillary balloon dilation in balloon enteroscopy-assisted endoscopic retrograde cholangiopancreatography.	Dig Endosc. 2023;35(3):e33-e34.	Case report
22	Inoue T, Ibusuki M, Kitano R, et al.	肝胆膵内科	Double bare metal stent deployment combined with intraductal radiofrequency ablation for malignant distal biliary obstruction: a prospective pilot study.	Sci Rep. 2023;13(1):2654.	Original Article

23	Inoue T, Yoneda M.	肝胆膵内科	Recent Updates on Local Ablative Therapy Combined with Chemotherapy for Extrahepatic Cholangiocarcinoma: Photodynamic Therapy and Radiofrequency Ablation.	Curr Oncol. 2023;30(2):2159-2168.	Review
24	Inoue T, Kutsumi H, Ibusuki M, et al.	肝胆膵内科	A novel non-slip banded balloon catheter for endoscopic sphincteroplasty: an ex vivo and in vivo pilot study.	Sci Rep. 2023;13(1):4032.	Original Article
25	Inoue T, Kutsumi H, Ibusuki M, et al.	肝胆膵内科	Endoscopic biliary ethanol ablation using a novel multi-hole balloon catheter: In vivo feasibility study in a swine model.	PLoS One. 2023;18(3):e0283733.	Original Article
26	安藤博彦、山地杏平、香坂俊	循環器内科	Clinical Presentation and In-Hospital Outcomes of Acute Myocardial Infarction in Young Patients: Japanese Nationwide Registry	JACC Asia . 2022 Jul 5;2(5):574-585.	Original Article
27	大橋寛史、縄野友明、高島浩明	循環器内科	Differential Impact of Renal Function on the Diagnostic Performance of Resting Full-Cycle Ratio in Patients With Renal Dysfunction	Circ Rep . 2022 Aug 24;4(9):439-446.	Original Article
28	安藤博彦、山地杏平、香坂俊	循環器内科	Japanese Nationwide PCI (J-PCI) Registry Annual Report 2019: patient demographics and in-hospital outcomes	Cardiovasc Interv Ther . 2022 Apr;37(2):243-247.	Original Article
29	田邊すばる、中野雄介、鈴木靖史	循環器内科	Successful use of stellate ganglion phototherapy in refractory ventricular tachycardia in a patient with cardiac sarcoidosis	BMJ Case Rep . 2022 Jul 21;15(7):e249183.	Case report
30	Haji S, Fujita K, Oki R,et al	神経内科	Trial of EPI-589 in Amyotrophic Lateral Sclerosis (EPIC-ALS): Protocol for a Multicenter, Open-Labeled, 24-Week, Single-Group Study.	JMIR Res Protoc. 2023 Jan 30;12:e42032. doi: 10.2196/42032.	Original Article

31	Kitamura F, Yamaguchi M, Nishimura M, et al.	腎臓・リウマチ膠原病内科	Anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis complicated by thrombotic microangiopathy with posterior reversible encephalopathy syndrome successfully treated with eculizumab: A case report.	Mod Rheumatol Case Rep. 2022 Jun 24;6(2):254-259.	Case report
32	Terashima S, Yamaguchi M, Ishihara T, et al.	腎臓・リウマチ膠原病内科	Mepolizumab administration for eosinophilic granulomatosis with polyangiitis in an elderly patient with an abrupt onset of limb ischaemia and peripheral neuropathy: A case-based literature review	Mod Rheumatol Case Rep. 2023 Jan 3;7(1):142-147.	Case report
33	Yamaguchi M, Ito M, Sugiyama H, et al.	腎臓・リウマチ膠原病内科	Association between renal-limited vasculitis and relapse of antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis: A single-center retrospective cohort study in Japan.	PLoS One. 2022 Sep 29;17(9):e0274483.	Original Article
34	Kuroyanagi Y, Takeda A, Kinashi H, et al.	腎臓・リウマチ膠原病内科	Galactose-deficient IgA1 Is Involved in IgA Deposition in Renal Grafts Biopsied One Hour after Kidney Transplantation.	Intern Med. 2023 Jun 1;62(11):1581-1589.	Original Article
35	Tanaka H, Sun T, Kinashi H, et al.	腎臓・リウマチ膠原病内科	Interleukin-6 blockade reduces salt-induced cardiac inflammation and fibrosis in subtotal nephrectomized mice.	Am J Physiol Renal Physiol. 2022 Dec 1;323(6):F654-F665.	Original Article
36	Yamaguchi M, Ito M, Sugiyama H, et al.	腎臓・リウマチ膠原病内科	Time to normalisation of CRP and incidence of relapse in microscopic polyangiitis: A medical records review study in Japan.	Mod Rheumatol. 2022 Dec 10:roac146.	Original Article
37	Mizaki T, Nobata H, Banno S, et al.	腎臓・リウマチ膠原病内科	Population pharmacokinetics and limited sampling strategy for therapeutic drug monitoring of mycophenolate mofetil in Japanese patients with lupus nephritis.	J Pharm Health Care Sci. 2023 Jan 9;9(1):1.	Original Article

38	Quan NV, Anh H, Lam VQ, et al.	血液内科	Anti-Diabetes, Anti-Gout, and Anti-Leukemia Properties of Essential Oils from Natural Spices Clausena indica, Zanthoxylum rhetsa, and Michelia tonkinensis.	Molecules. 2022;27(3)	Original Article
39	Murakami S, Ri M, Ito M, et al.	血液内科	Efficacy and safety of modified BLd therapy for Japanese patients with transplant-ineligible multiple myeloma	Int J Hematol. 2022;116(4):563-569	Original Article
40	Mizuno S, Takami A, Takamatsu H, et al.	血液内科	Autologous hematopoietic cell transplantation for myeloma patients with hepatitis B virus or hepatitis C virus in the era of novel agents	Bone Marrow Transplant. 2022;57(5):846-848	Letter
41	Mizuno S, Takami A, Kawamura K, et al.	血液内科	Favorable Outcome with Conditioning Regimen of Flu/Bu4/Mel in Acute Myeloid Leukemia Patients in Remission Undergoing Cord Blood Transplantation	Transplant Cell Ther. 2022;28(11):775 e771-775 e779	Original Article
42	Maeda A, Yamamoto R, Mizuno S, et al.	血液内科	Efficacy of a 365 nm Ultraviolet A1 light Emitting Diode (UVA1-LED) in in vitro Extracorporeal Photopheresis	Photochem Photobiol. 2022;98(5):1229-1235	Original Article
43	Lam VQ, Anh H, Quan NV, et al.	血液内科	Cytotoxicity of Callerya speciosa Fractions against Myeloma and Lymphoma Cell Lines	Molecules. 2022;27(7)	Original Article
44	Hanamura I	血液内科	Multiple myeloma with high-risk cytogenetics and its treatment approach	Int J Hematol. 2022;115(6):762-777	Review

45	Uchino K, Sakai K, Shinohara S, et al.	血液内科	Successful preventive treatment with cyclosporine in a patient with relapsed/refractory immune-mediated thrombotic thrombocytopenic purpura: a case report and review of the literature.	Int J Hematol. 2022;116(2):295-301	Review
46	Uchino K, Kanasugi J, Enomoto M, et al.	血液内科	VEXAS syndrome	Int J Hematol. 2022;116(4):463-464	Case report
47	Tatsuhito Himeno, Hideki Kamiya, Jiro Nakamura	糖尿病内科	Not out of the woods yet: "Diabetic neuropathy" or "neuropathy associated with diabetes"?	J Diabetes Investig・2022.5	Original Article
48	Sachiko Sasajima, Masaki Kondo, Nobuhiko Ohno, et al.	糖尿病内科	Thermal gradient ring reveals thermosensory changes in diabetic peripheral neuropathy in mice	Sci Rep・2022.6	Original Article
49	Hiromi Nakai-Shimoda, Tatsuhito Himeno, Mikio Motegi, et al.	糖尿病内科	Protocol to image and analyze the morphology of mouse peripheral nerves using transmission electron microscopy	STAR Protoc・2022.8	Original Article
50	Yasuaki Tatsumi, Ayako Kato, Naoko Niimi, et al.	糖尿病内科	Docosahexaenoic Acid Suppresses Oxidative Stress-Induced Autophagy and Cell Death via the AMPK-Dependent Signaling Pathway in Immortalized Fischer Rat Schwann Cells 1	Int J Mol Sci・2022.4	Original Article
51	Chika Kojima, Tatsuhito Himeno, Machiko Akao, et al.	糖尿病内科	Multifocal Neuroarthropathy of the Knee and Foot Induced by Physical Training of the Lower Extremities in a Patient With Latent Autoimmune Diabetes in Adults	Case Reports・2022.8	Original Article

52	Ryotaro Bouchi, Tatsuya Kondo, Yasuharu Ohta, et al.	糖尿病内科	A consensus statement from the Japan Diabetes Society: A proposed algorithm for pharmacotherapy in people with type 2 diabetes	J Diabetes Investig・2023.1	Original Article
53	Bouchi R, Kondo T, Ohta Y, et al.	糖尿病内科	A consensus statement from the Japan Diabetes Society (JDS): a proposed algorithm for pharmacotherapy in people with type 2 diabetes	Diabetol Int・2022.12	Original Article
54	Emi Asano-Hayami 1, Yoshiaki Morishita 1, Tomohide Hayami 1, et al.	糖尿病内科	Clinical parameters correlated with the psoas muscle index in Japanese individuals with type 2 diabetes mellitus	Diabetol Int・2022.9	Original Article
55	Muto T, Masuda Y, Nakamura N	小児科	Usefulness of Q-Probe PCR in Detecting Macrolide-Resistant Mycoplasma pneumoniae Infection in Children.	Jpn J Infect Dis. 2022;75:89-91.	Original Article
56	Muto T, Masuda Y, Nakamura N	小児科	Usefulness of brain natriuretic peptide to distinguish Kawasaki disease from cervical lymphadenitis.	Pediatr Int. 2022;64:e15050	Original Article
57	Muto T, Nakamura N, Masuda Y	小児科	Serum free carnitine levels in children with Kawasaki disease.	Pediatr Int. 2022;64:e14849	Original Article
58	Iwayama H, Ishihara N, Kawahara K	小児科	Early immunological responses to the mRNA SARS-CoV-2 vaccine in patients with neuromuscular disorders.	Front Immunol. 2022;13:996134	Original Article
59	Numoto S, Kakita H, Takeshita S	小児科	Effects of maternal magnesium sulfate treatment on newborns.	Pediatr Int. 2022;64:e14747	Original Article
60	Kawahara K, Shimomura Y, Oshima Y	小児科	Case Report: Acquired Generalized Anhidrosis Caused by Brain Tumor: Review of the Literature.	Front Endocrinol (Lausanne). 2022;13:877715	Case report

61	Murase H, Zhu Y, Sakaida K	小児科	Case report: Five patients with myocarditis after mRNA COVID-19 vaccination.	Front Pediatr. 2022;10:977476	Case report
62	Uchino T,Komatsu S,Matsumura T,et al.	消化器外科	Laparoscopic hartmann's reversal combined with interval lymphadenectomy after emergency surgery for perforated colon cancer: A case report.	Asian Journal of Endoscopic Surgery2022.4;15:384-387	Case report
63	Matsushita N,Kaneko K,Kato S,et al.	消化器外科	Laparoscopic complete excision of an enormous simple hepatic cyst occupying the entire abdomen in a child: a case report and literature review.	Surgical Case Reports2022.5;8: 87-93	Case report
64	Fukami Y,Saito T,Osawa T,et al.	消化器外科	Blumgart anastomostic with polyglycolic acid felt reduces the incidence of pancreatic fistula after pancreaticoduodenectomy: A propensity score analysis.	Annals of Gastroenterological Surgery2022.6;6: 880-886	Original Article
65	Fujisaki H,Fukami Y,Arikawa T,et al.	消化器外科	Long-term results of laparoscopic Hassab's procedure for esophagogastric varices with portal hypertension.	Asian Journal of Endoscopic Surgery2022.7;15:502-512	Original Article
66	Kato S,Kaneko K,Matsushita N,et al.	消化器外科	Prenatally diagnosed biliary cysts : A spectrum from congenital biliary dilatation to biliary atresia from the same origin.	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences2022.9;29:961-963	Original Article
67	Saito T, Fukami Y, Kurahashi S,et al.	消化器外科	Current status and future perspectives of robotic inguinal hernia repair.	Surgery Today2022.10;52:1395-1404	Original Article
68	Masayuki Yamaji, Sawako Okamoto, Motoki Yano et al.	呼吸器外科	Postoperative aortic injury caused by a staple line formed during wedge resection of the lung	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2022 Nov 8; 35(6): ivac275.	Case report

69	Saito M, Banno H, Ito Y	乳腺・内分泌外科	Case report: surgical management of symptomatic pretracheal thyroid gland in a patient with dual ectopic thyroid	Thyroid Res . 2022 Dec オンライン	Case report
70	Ido M, Saito M, Banno H	乳腺・内分泌外科	Clinical performance of digital breast tomosynthesis-guided vacuum-assisted biopsy: a single-institution experience in Japan	BMC Med Imaging . 2023 Jan オンライン	Original Article
71	Goto M, Nakano S, Saito M	乳腺・内分泌外科	Evaluation of an MRI/US fusion technique for the detection of non-mass enhancement of breast lesions detected by MRI yet occult on conventional B-mode second-look US.	J Med Ultrason (2001). 2022 Apr;49(2):269-278.	Original Article
72	Watanabe T, Iwami K, Kishida Y et al.	脳神経外科	Combined Exoscopic and Endoscopic Two-Step Keyhole Approach for Intracranial Meningiomas.	Curr Oncol. 29:5370-5382, 2022	Original Article
73	Ohshima T, Ioku T, Yokota M et al.	脳血管内治療センター	A Novel Approach to Neuroendovascular Treatment Looking up from the Ascending Aorta Using an Alpha Shape Guiding Catheter.	World Neurosurg. 169:32-35, 2022	Others
74	Okamoto T, Watanabe K, Banno T, et al.	産科・婦人科	Amount of proteinuria as associated with severity classification of pregnant women with preeclampsia	Pregnancy Hypertens・202208;29:30－35	Original Article
75	Morimoto S, Shimazu M, Minamitani T, et al.	産科・婦人科	Lower abdominal pain during pregnancy due to small bowel perforation: a case of Crohn's disease requiring differentiation from obstetric disorders. (Case report)	Hypertens Res Pregnancy・202210:57－73	Original Article
76	Saitou T, Watanabe K, Iwasaki A, et al.	産科・婦人科	Intracranial hemorrhage in pregnant women with hypertensive disorders of pregnancy. (Case report)	Hypertens Res Pregnancy・202210:117－120	Original Article

77	Fujimori N, Owaki Y, Watanabe K, Morimoto S, et al.	産科・婦人科	A case of umbilical cord hemorrhagic ulceration with congenital upper gastrointestinal atresia. (Case report)	Hypertens Res Pregnancy・202311：11－15	Case report
78	Ishikawa A, Matsushita H, Shimizu S, et al.	産科・婦人科	Impact of menopause and the menstrual cycle on oxidative stress in Japanese women	J Clin Med・202301；12：829	Original Article
79	Watanabe K, Okamoto T, Saitou T,et al.	周産期母子医療センター	Increased urinary albumin leakage is related to injuries of glomerular glycocalyx and podocytes, and associated with tubular dysfunction in preeclampsia	Pregnancy Hypertens・202302；32：1－6	Original Article
80	Tsuboi K, Kamei M	愛知医科大学眼科学講座	THREE-DIMENSIONAL QUANTIFICATION OF INTRARETINAL CYSTOID SPACES ASSOCIATED WITH FULL-THICKNESS MACULAR HOLE	Retina . 2022 Dec 1;42(12)	Original Article
81	Ishida Y, Tsuboi K Baba K	愛知医科大学眼科学講座	En Face OCT Detects Preretinal Abnormal Tissues Before and After Internal Limiting Membrane Peeling in Eyes with Macular Hole	Ophthalmol Retina . 2023 Feb;7(2):153-163	Original Article
82	Ishida Y, Tsuboi K,Kamei M	愛知医科大学眼科学講座	Dissociated optic nerve fiber layer-like appearance indicating an internal limiting membrane defect associated with an epiretinal membrane: two case reports	BMC Ophthalmol . 2022 Apr 14;22(1):169	Case report
83	Yamamoto T, Takehara Y, Adachi S, et al.	放射線科	Pure ductal adenocarcinoma of the prostate protruding into the prostatic urethra: A case report of MRI findings and literature review.	BJR Case Rep. 2022;8(5):20210234.	Case report
84	Narita A, Takehara Y, Maruchi Y, et al.	放射線科	Usefulness of peripherally inserted central catheter port system (PICC-PORT) implantation in the sitting position: a new technique for cases unsuitable for conventional implantation	Jpn J Radiol. 2023;41(1):108-113.	Original Article

85	Yamamoto T, Maruchi Y, Asai A, et al.	放射線科	Granulomatosis with polyangiitis presenting as multiple renal masses: A case report with MRI findings	Radiol Case Rep. 2023;18(3):1292-1296.	Case report
86	Ito M, Yoshioka Y, Takase Y, et al.	放射線科	Stereotactic body radiation therapy for prostate cancer: a study comparing 3-year genitourinary toxicity between CyberKnife and volumetric-modulated arc therapy by propensity score analysis	Radiat Oncol. 2023;18(1):39.	Original Article
87	Haruna Kanamori, Yoshihito Fujita, Rina Joko et al.	麻酔科	Effect of intraoperative systemic magnesium sulphate on postoperative Richmond Agitation-Sedation Scale score after endovascular repair of aortic aneurysm under general anesthesia: A double-blind, randomized, controlled trial	PLoS ONE. 2023 Feb (オンライン)	Original Article
88	Takayuki Irahara,Dai Oishi, Masanobu Tsuda, et al	救命救急科	Combined, converted, and prophylactic use of resuscitativeendovascular balloon occlusion of the aorta for severetorso trauma: a retrospective study	Acute Medicine & Surgery., 2022;9:e792	Original Article
89	Asai N, Motojima S, Ohkuni Y, et al.	感染症科	Pathophysiological mechanism of non-HIV *Pneumocystis jirovecii* pneumonia.	Respir Investig. 2022 Apr 29:S2212-5345	Original Article
90	Hirai J, Yamaoka T, Takahashi T, et al.	感染症科	Shoulder injury related to zoster vaccine administration.	Intern Med. 2022 Apr 30	Original Article
91	Asai N, Kato H, Mikamo H.	感染症科	The pathophysiological mechanisms of COVID-19 and host immunity, with emphasis on the dysbiosis of the lung and gut microbiomes and pregnancy.	Respir Investig. 2022 Apr 4:S2212-5345	Original Article

92	Asai N, Suematsu H, Sakanashi D, et al.	感染症科	Empyema and bacteremia caused by Aeromonas hydrophila: Case report and review of the literature.	J Infect Chemother. 2022 May;28(5):705-708	Original Article
93	Hirai J, Kuruma T, Sakanashi D, et al.	感染症科	Lemierre Syndrome Due to Dialister pneumosintes: A Case Report.	Infect Drug Resist. 2022 May 31; 15: 2763-2771	Case report
94	Shibata Y, Hagihara M, Hayashi T, et al.	感染制御部	Retrospective study on the relationship between glycemic control and dental treatment-associated infection among diabetic patients.	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology 2022;	Original Article
95	Asai N, Shibata Y, Hirai J, et al.	感染症科	Could quick SOFA and SOFA score be a predictive tool for 30-day and in-hospital mortality in acute empyema?	J Infect Chemother. 2022 Aug 7:S1341-321X(22)00221-5	Original Article
96	Hirai J, Suzuki H, Sakanashi D, et al.	感染症科	The First Case Report of Community-Acquired Infective Endocarditis Due to Sequence Type 1223 *Staphylococcus argenteus* Complicated with Convexity Subarachnoid Hemorrhage.	Infect Drug Resist. 2022 Aug 29;15:4963-4970	Original Article
97	Mikamo H, Koizumi Y, Yamagishi Y, et al.	感染症科	Comparing the cobas Influenza A/B Nucleic acid test for use on the cobas Liat System (Liat) with rapid antigen tests for clinical management of Japanese patients at the point of care.	PLoS One. 2022 Oct 27;17(10):e0276099	Original Article
98	Asai N, Kato H, Mikamo H.	感染症科	The pathophysiological mechanisms of COVID-19 and host immunity, with emphasis on the dysbiosis of the lung and gut microbiomes and pregnancy.	Respir Investig. 2022 Jul;60(4):496-502	Original Article

99	Mikamo H, Nagashima M, Kusachi S, et al.	感染症科	Efficacy and safety of tedizolid for the treatment of ventilated gram-positive hospital-acquired or ventilator-associated bacterial pneumonia in Japanese patients: Results from a subgroup analysis of a phase 3, randomized, double-blind study comparing tedizolid and linezolid.	J Infect Chemother. 2022 Sep;28(9):1235-1241	Original Article
100	Hirai J, Mori N, Sakanashi D, et al.	感染症科	Silver-colored colonies of *Staphylococcus argenteus*.	IDCases 2023; 31: e01696	Original Article
101	Shibata Y, Hagihara M, Asai N,	感染症科	A retrospective study to compare the incidence of hyponatremia after administration between linezolid and tedizolid.	Antibiotics 2023; 12: 345	Original Article
102	Asai N, Shibata Y, Hirai J,	感染症科	A gap of patients with infective endocarditis between clinical trials and the real world.	J Clin Med 2023; 12: 1566	Original Article
103	Hirai J, Mori N, Kao H,	感染症科	A case of severe Pneumocystis pneumonia in an HIV-negative patient successfully treated with oral atovaquone.	Infect Drug Resist 2023: 16: 1561-1566	Original Article
104	Mori N, Hirai J, Asai N, et al.	感染症科	Appropriate outcome settings for the effectiveness of oral zinc treatment for Coronavirus Disease-2019.	Clin Infect Dis. 2023 Mar 17:ciad153	Original Article
105	Tsuzuki T,Chisato Ohe,Takahiro Osawa,et al	病理診断科	Prognostic value of immune phenotype and PD-L1 status in recurrent or metastatic renal cell carcinoma: an exploratory analysis of the ACHERY study	Diagnostics(Basel).2022 Jun 20;12(6):1507	Original Article
106	Takahara T, Satou A, Tsuzuki T,et al	病理診断科	Hodgkin Lymphoma:Biology and Differential Diagnostics Problem.	Diagnostics(Basel).2022 Jun 20;12(6):1507	Review

107	Satou A, Takahara T, Tsuzuki T.	病理診断科	Pathological and Molecular Features of Nodal Peripheral T-Cell Lymphomas.	Diagnostics(Basel).2022 Aug 18;12(8):2001	Review
108	Yamamoto Y, Takahara T, Ohashi A,et al	病理診断科	Cytokeratin 5/6 expression in pT1 bladder cancer predicts intravesical recurrence in patients treated with bacillus Calmette-Guerin instillation.	Pathology.2022 Oct;54(6):700-706	Original Article
109	Takahara T, Nakamura S, Tsuzuki T, et al	病理診断科	The Immunology of DLBCL.	Cancers(Basel).2023 Jan 29;15(3):835	Review
110	Satou A, Takahara T, Nakamura S.	病理診断科	An Update on the Pathology and Molecular Features of Hodgkin Lymphoma.	Cancers(Basel).2022 May 26;14(11):2647	Review
111	Takahara T, Sakakibara A, Tsuyuki Y,et al	病理診断科	Diagnostic approach for classic Hodgkin lymphoma in small samples with an emphasis on PD-L1 expression and EBV harboring in tumor cells: a brief review from morphology to biology.	J Clin Exp Hematop.2023;63(2):58-64	Review
112	Takahara T, Ishikawa E, Suzuki Y,et al	病理診断科	PD-L1-expressing extranodal diffuse large B-cell lymphoma, NOS with and without PD-L1 3'-UTR structural variations.	J Clin Exp Hematop.2022 Jun 28;62(2):106-113	Original Article
113	kagami, H.; Inoue,M.; Agata, H	愛知医科大学	A clinical study of alveolar bone tissue engineering using autologous bone marrow stromal cells: effect of optimized cell-processing protocol on efficacy.	Clin. Med. 2022, 11, 7328. https://doi.org/10.3390/jcm11247328	Original Article
114	Ushida T, Katayama Y, Hiasa Y, et al.	疼痛緩和外科・いたみセンター	Mirogabalin for Central Neuropathic Pain After Spinal Cord Injury: A Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled, Phase 3 Study in Asia.	Neurology. 2023.3; 100(11): e1193-e1206.	Original Article

115	Ushida T.	疼痛緩和外科・いたみセンター	[Chronic Pain: Definition/Conception/Classification of Pain]	Brain Nerve. 2023 3; 75(3): 201-205.	Original Article
116	Nagai S, Niwa H, Terajima Y, et al.	いたみセンター	The Relationship between Numbness and Quality of Life.	J Clin Med. 2023.2; 12(4): 1324.	Original Article
117	Shiro Y, Arai YC, Ikemoto, et al.	疼痛緩和外科・いたみセンター	Evaluating the Relationship Between Acute Pain Perception and Gut Microbiota Among Female University Students in Japan: A Prospective Cohort Study.	Anesth Pain Med. 2022.4; 12(2): e122489.	Original Article
118	Kajikawa S, Fujishiro E, Kato T,et al.	臨床腫瘍センター	The diagnostic yield and characteristics of bronchoalveolar lavage in suspected nontuberculous mycobacterial pulmonary disease.	Int J Mycobacteriol 11, 236-40, 2022	Original Article
119	Katano T, Tsuzuki T, Numanami H,et al.	臨床腫瘍センター	A case of renal cell carcinoma with microscopic pulmonary tumor embolism proven by surgical lung biopsy.	Respiratory Medicine Case Reports 39, 101716, 2022	Case report
120	Banno S, Yamaguchi E, Iwagaitsu S,et al.	臨床腫瘍センター	Long-term favorable outcome of the fibrocavitary form of pulmonary Mycobacterium avium complex disease with concomitant abatacept monotherapy in a case of rheumatoid arthritis.	Modern Rheumatology Case Reports 6, 1-5, 2022	Case report
121	Murakami S, Ri M, Ito Met al.	臨床腫瘍センター	Efficacy and safety of modified BLd therapy for Japanese patients with transplant-ineligible multiple myeloma.	Int J Hematol. 2022 Oct;116(4):563-569	Original Article
122	Kazumasa Sakamoto, Kiyoaki Ito, Hiroshi Yotsuyanagi, et al.	Department of Gastroenterology, Aichi Medical University	Trends of hepatitis B virus genotype distribution in chronic hepatitis B patients in Japan	Journal of Gastroenterology 57(12) 971-980 2022年9月	Original Article

123	Ito Kiyoaki ,Yoshio Sumida,Yukiomi Nakade,et al.	Department of Gastroenterology, Aichi Medical University	Mac-2 binding protein glycosylation isomer, the FIB-4 index, and a combination of the two as predictors of non-alcoholic steatohepatitis	PLOS ONE 17(11) e0277380-e0277380 2022年11月	Original Article
124	Watanabe D.	愛知医科大学皮膚科	Preface to Journal of Dermatology special issue: Viral diseases in dermatology -recent advances.	J Dermatol. 2023 Mar;50(3):279	Original Article
125	Ando Y, Ohshima Y, Yanagishita T	愛知医科大学皮膚科	Clinical utility of botulinum toxin type A local injection therapy for head and forehead hyperhidrosis.	J Dermatol. 2022 Jul;49(7):719-723.	Original Article
126	Kawahara K, Shimomura Y, Oshima Y	愛知医科大学小児科	Case Report: Acquired Generalized Anhidrosis Caused by Brain Tumor: Review of the Literature.	Front Endocrinol (Lausanne). 2022 May 26;13:877715	Case report
127	Naoharu Mori, Maeda Keisuke, Yasushi Fujimoto, et al.	緩和ケアセンター	Prognostic implications of the Global Leadership Initiative on Malnutrition criteria as a routine assessment modality for malnutrition in hospitalized patients at a university hospital	Clinical Nutrition 42(2) 166-172, 2023 Jan.	Original Article
128	Yuria Ishida, Keisuke Maeda, T. Inoue, et al.	栄養部	Decreased Diversity of Gut Microbiota Is Associated with Decreased Muscle Mass and Function in Older Adults Residing in a Nursing Home	The journal of nutrition, health & aging volume 26, pages 537-538 (2022)	Original Article
129	Yuria Ishida, Keisuke Maeda, Tomoyuki Nonogaki, et al.	栄養部	Body mass index and weight loss predict mortality in older patients with chronic kidney disease	Geriatrics & Gerontology International 2022 Oct. (オンライン)	Letter
130	Lee PAL, Kono S, Kakizaki H, et al.	愛知医科大学病院　眼形成・眼窩・涙道外科	Entrapment of the inferior oblique and inferior rectus muscles in orbital trapdoor fracture	Orbit 2022 Oct;41(5):629-632.	Case report

131	Takahashi Y, Vaidya A, Kakizaki H.	愛知医科大学病院　眼形成・眼窩・涙道外科	Campylobacter concisus as a pathogen of primary canaliculitis: a case report	Orbit 2022 Oct;41(5):653-656.	Case report
132	Miyazaki H, Tanaka K, Takahashi Y, et al.	愛知医科大学病院　眼形成・眼窩・涙道外科	Reliable and safe salivary duct repositioning technique with partial transection and intraductal stenting: Technical notes	Auris Nasus Larynx 2023 Feb;50(1):161-164.	Case report
133	Takahashi Y, Vaidya A, Kakizaki H.	愛知医科大学病院　眼形成・眼窩・涙道外科	Orbital Compartment Syndrome Following Incisional Biopsy of Orbital Natural Killer/T-Cell Lymphoma	J Craniofac Surg 2022 Sep;33(6):e583-e585.	Case report
134	Takahashi Y, Vaidya A, Kakizaki H.	愛知医科大学病院　眼形成・眼窩・涙道外科	Improvement of Orbital Intramuscular Hemangioma Following Delivery	Ophthalmic Plast Reconstr Surg 2022 Nov-Dec;38(6):e183-e186.	Case report
135	Takahashi Y, Vaidya A, Kakizaki H.	愛知医科大学病院　眼形成・眼窩・涙道外科	Changes in Dry Eye Status after Steroid Pulse and Orbital Radiation Therapies in Active Thyroid Eye Disease	J Clin Med 2022 Jun;11(13):3604.	Original Article
136	Takahashi Y, Kono S, Yokoyama T, et al.	愛知医科大学病院　眼形成・眼窩・涙道外科	Orbital Abscess Developed Apart From Paranasal Sinusitis and Dacryocystitis in Fibrous Dysplasia	Cureus 2022 Jun;14(6):e26061.	Case report
137	Takahashi Y, Vaidya A, Kono S, et al.	愛知医科大学病院　眼形成・眼窩・涙道外科	Epidemic Keratoconjunctivitis-Associated Acute Dacryoadenitis in an Adult	Cureus 2022 Jul;14(7):e27003.	Case report
138	Kono S, Vaidya A, Naito M, et al.	愛知医科大学病院　眼形成・眼窩・涙道外科	Positional relationship between lacrimal sac and skull base: implication of risk of cerebrospinal fluid leakage during dacryocystorhinostomy	Sci Rep 2022 Aug;12(1):14459.	Original Article
139	Takahashi Y, Vaidya A, Kono S, et al.	愛知医科大学病院　眼形成・眼窩・涙道外科	The relationship between orbital floor fracture patterns around the infraorbital groove and development of infraorbital nerve hypoesthesia: a computed tomographic study	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 2023 Mar;261(3):841-848.	Original Article

140	Takahashi Y, Vaidya A, Kakizaki H.	愛知医科大学病院　眼形成・眼窩・涙道外科	Risk factors for development of superior limbic keratoconjunctivitis in thyroid eye disease in Japanese	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 2023 Mar;261(3):833-839.	Original Article
141	Takahashi Y, Vaidya A, Kakizaki H.	愛知医科大学病院　眼形成・眼窩・涙道外科	Regression of Folliculosebaceous Cystic Hamartoma in the Palpebral Conjunctiva After Incisional Biopsy	J Craniofac Surg 2023 Jan-Feb;34(1):e63-e65.	Case report
142	Ito M, Vaidya A, Kakizaki H, et al.	愛知医科大学病院　眼形成・眼窩・涙道外科	Spontaneous regression of immunoglobulin G4-related dacryoadenitis and multiple organ involvement: A case report	Medicine (Baltimore) 2023 Jan;102(1):e32618.	Case report
143	Yokoyama T, Vaidya A, Kono S, et al.	愛知医科大学病院　眼形成・眼窩・涙道外科	Changes in Lacrimal Punctum Position and Tear Meniscus Height after Correction of Horizontal Laxity in Involutional Lower Eyelid Entropion	J Ophthalmol 2023 Jan;2023:4113151.	Original Article
144	Ogawa T, Yo K, Okamoto H et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	A Novel Treatment Strategy for Advanced Lacrimal Sac Carcinomas Confirmed by p16 Immunostaining.	Semin Ophthalmol 2022 Apr 37(3):307-12	Original Article
145	Yo K, Nishimura K, Takahashi Y et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Comparison of the decompressive effect of different surgical procedues for dysthyroid optic neuropathy using 3D printed models.	Graefes arch Clin Exp Ophthalmol 2022 Sep 260;9:3043-51	Original Article
146	Yamanaka S, Suzuki S, Ito H et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Establishment of Mucoepidermoid Carcinoma Cell Lines from Surgical and Recurrence Biopsy Specimens.	Int J Mol Sci 2023 Jan 24;2:1722	Original Article
147	Maruo T, Fujimoto Y, Yokoi S, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	New, safe and simple endoscopic cricopharyngeal myotomy with a curved rigid laryngoscope: A case report	Mol Clin Oncol 2023 Jan 18;2:10	Case report

計147件

（注）　1　当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2　報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること（筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。）

3　「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4　「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5　「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月（原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない）; 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
（出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月（オンライン掲載月）の後に（オンライン）と明記すること）。
記載例:　Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9　/　Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6　「論文種別」欄には、Original Article、Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文（任意）

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	伊藤理	呼吸器・アレルギー内科	呼吸器疾患診療における呼気一酸化窒素（NO）濃度測定の意義.	臨床生理学会雑誌 2022;52:107-111.	Review
2	川頭祐一.	神経内科	Sjögren症候群の運動失調.	脳神経内科　2023; 98(1) : 92-99.	Original Article
3	Kimura M, Nakagawa H, Niwa JI,et al	神経内科	Woman with Symptoms of Increased Salty and Reduced Sweet Taste Japanese Woman with Symptoms of Increased Salty and Reduced Sweet Taste Perception Preceding a Diagnosis of Thymoma-Associated Myasthenia Gravis.	Am J Case Rep. 2022.5 doi: 10.12659/AJCR.936000.	Case report
4	Kimura M, Niwa JI, Doyu M.	神経内科	Recurring weakness in rhabdomyolysis following Pfizer-biotech coronavirus disease 2019 mRNA vaccination.	Vaccines (Basel).2022;10(6):935. doi: 10.3390/vaccines10060935.PMID: 35746543	Case report
5	Kimura M, Niwa JI, Ito H,et al	神経内科	Multiple cerebral infarctions due to calcified amorphous tumor growing rapidly from an antecedent infection and decreasing rapidly by detachment of fibrin and antithrombotic drugs: a case report.	BMC Neurol.2022;22(1):391. doi: 10.1186/s12883-022-02918-5.	Case report
6	高見昭良	愛知医科大学	症例カンファレンス 重症寒冷凝集素症患者の周術期体温管理	LiSA 29 (3), 205-225, 2022-03-01	Review

7	高見昭良	愛知医科大学	専門医紹介のタイミング	日本医師会雑誌　第151巻特別号(1)　血液疾患のすべて　S350-S351	Review
8	岩山秀之、河原幸平、北川幸子	小児科	腹腔鏡手術中に索状性腺および痕跡子宮が発見されたターナー症候群と診断された1例.	小児科臨床. 2022;75:449-52	Case report
9	太田航貴、宗宮弘明、沼本真吾	小児科	全自動多項目遺伝子検査が頭部外傷後の肺炎球菌性髄膜炎の迅速診断に有用であった小児例.	小児科臨床. 2022;75:807-10	Case report
10	齊藤卓也、佐野力、近藤正樹、ほか。	消化器外科	さまざまなリスクのため内科治療か外科治療か意見が分かれたが、チームで腹腔鏡下スリーブ状胃切除術を最終選択した高度肥満症の一例.	日本肥満症治療学会誌 2022.8;10:12-15	Case report
11	齊藤卓也、深見保之、小松俊一郎、ほか。	消化器外科	ロボット支援下鼠径ヘルニア修復術(環状切開)の手術手技　高位切開へのブラッシュアップ.	臨床外科2022.9;77:1064-1068	Original Article
12	金子健一朗、石原慎、小野滋、ほか。	消化器外科	特集　先天性胆道拡張症 up-to-date 膵・胆管合流異常/先天性胆道拡張症の歴史.	小児外科 2022.9;54:844-849	Original Article
13	水本　強一 香村　真理乃 瓶井　資弘	愛知医科大学眼科学講座	網膜静脈分枝閉塞症における光干渉断層血管撮影を用いた繰返し測定による網膜血管密度の変動値	日本視能訓練士協会誌(0387-5172)52巻 Page75-84(2022.12)	Original Article
14	藤田義人	麻酔科	入院患者の急変に迅速に対応するには: RRSの院内普及への工夫	現代医学. 2022 Dec; 69: 85-90	Review
15	都築豊徳	病理診断科	尿路上皮がんの分子サブタイプ分類と治療選択	泌尿器科(2435-192X)16巻6号Page725-734(2022.12)	Review
16	都築豊徳	病理診断科	WHO Classification of Tumours, 5th edition, Urinary and Male Genital Tumours 改訂ポイント	病理と臨床(0287-3745)40巻9号Page0907-0909(2022.09)	Review

17	都築豊徳	病理診断科	プレシジョンメディシンを目指した前立腺癌診療~生検、臨床病理、遺伝子検査、リキッドバイオプシー~プレシジョンメディシンと臨床病理　前立腺癌の病理診断のupdateと遺伝子検査を意識した前立腺組織の取扱い	泌尿器外科(0914-6180)35巻8号Page912-914(2022.08)	Review
18	都築豊徳	病理診断科	次世代泌尿器病理学新しい視点からの挑戦	西日本泌尿器(0029-0726)84巻5号Page499-507(2022.06)	Review
19	都築豊徳	病理診断科	[デジタル革命が導く遠隔医療とAI]　病理診断とAI前立腺癌診断における現状と今後の展望	泌尿器(2435-192X)15巻6号Page666-673(2022.06)	Review
20	都築豊徳	病理診断科	[ICCRと日本病理学会-世界の動向と日本の病理診断と報告様式の在り方-]　ICCRの組織と活動	病理と臨床(0287-3745)40巻5号Page0431-0438(2022.05)	Review
21	高橋恵美子	病理診断科	[リンパ腫と関連疾患のトピックスI-B細胞系のリンパ腫と組織球性・樹状細胞腫瘍-]Histiocytic/Dendritic cell neoplasms	病理と臨床(0287-3745)40巻10号Page1012-1019(2022.10)	Review
22	佐藤啓	病理診断科	[リンパ腫と関連疾患のトピックスII-T細胞リンパ腫とリンパ腫関連疾患]Lymphoid proliferations and lymphomas associated with immune deficiency and dysregulation	病理と臨床(0287-3745)40巻11号Page1114-1121(2022.11)	Review
23	藤田雄輝、神谷妙子、柴田由加	中央臨床検査部	同一の表皮内刺激電極を用いたAβ、Aδ及びC線維選択的誘発電位	PAIN RESEARCH(0915-8588)37巻4号Page248(2022.12)	Others
24	柴田 由加、中楚 友一朗、中山 享之	中央臨床検査部	表皮内刺激電極(Intra-epidermal electrical stimulation:IES)を用いた神経機能評価の有用性に関する検討	PAIN RESEARCH(0915-8588)37巻4号Page264(2022.12)	Others

25	中山 享之、小川 実加	中央臨床検査部	愛知医科大学病院におけるボニコグアルファの使用経験について	臨床血液(0485-1439)63巻8号 Page959(2022.08)	Others
26	柴田 由加、姫野 龍仁、谷 浩也	中央臨床検査部	簡易神経伝導検査機器(DPNチェック)を用いた糖尿病性神経障害の評価換算式の診断向上への検討	糖尿病合併症36巻Suppl.1 Page178(2022.09)	Others
27	大坪 弘明、中山 享之、小川 実加	中央臨床検査部	検体搬送システム投入前後におけるクエン酸加血漿の血小板数変化について	日本検査血液学会雑誌(1347-2836)23巻学術集会 Page S175(2022.07)	Others
28	榎本 めぐみ、坂野 容菜、大坪 弘明	中央臨床検査部	当院におけるBRCA1/2遺伝子検査の管理体制について	日本検査血液学会雑誌(1347-2836)23巻学術集会 Page S160(2022.07)	Others
29	仲上 祐也、小野内 健太、榎本 めぐみ	中央臨床検査部	赤血球沈降速度測定装置MINI CUBEの基礎性能評価	日本検査血液学会雑誌(1347-2836)23巻学術集会 Page S158(2022.07)	Others
30	柴田 由加、中楚 友一朗、中山 享之	中央臨床検査部	刺激過敏を有する足部痛患者におけるAδ線維の痛覚閾値に関する検討	日本ペインクリニック学会誌(1340-4903)29巻6号 Page137(2022.06)	Others
31	武田 玲奈、藤田 雄輝、大辻 幹	中央臨床検査部	自律神経機能評価における心電図R-R間隔変動係数(CVR-R)の有用性について	体力科学(0039-906X)71巻3号 Page299-300(2022.06)	Others
32	小嶋 早葵子、柴田 由加、森部 龍一	中央臨床検査部	VaSeraVS-2500 PREMIUMにおけるHRV計測機能の検討	日本医学検査学会抄録集71回 Page322(2022.05)	Others
33	中山 享之、小川 実加	中央臨床検査部	当院におけるボニコグアルファの使用経験について	日本血栓止血学会誌(0915-7441)33巻2号 Page299(2022.05)	Others
34	柴田 由加、姫野 龍仁、谷 浩也	中央臨床検査部	簡易神経伝導検査機器(DPNチェック)を用いた糖尿病性神経障害の評価換算式の有用性についての検討	糖尿病(0021-437X)65巻Suppl.1 Page S-151(2022.04)	Others
35	田中 里美、木村 結衣、渡邉 愛佳	輸血部	当院における新型コロナウイルス感染症重症患者のアルブミン製剤使用の後方視的解析	日本輸血細胞治療学会誌.68(2) Page316.2022.4	Others
36	小園 愛弓、渡邉 愛佳、木村 結衣	輸血部	当院におけるPlerixaforの効果に関する自家末梢血幹細胞採取の後方視的解析	日本輸血細胞治療学会誌.68(2)Page371(2022.4)	Others

37	神保太樹，福田克彦，中河原毅，福沢嘉孝	愛知医科大学病院 先制・統合医療包括センター	新型コロナウイルス感染症における嗅覚障害への匂い付きマスクの可能性	ヘルスケアプロダクツ 1(1) 66-69 2023年3月	Original Article
38	渡辺 大輔	愛知医科大学皮膚科	COVID-19,COVID-19ワクチン接種と帯状疱疹に因果関係はあるか?	皮膚科：2023.03;3（3）: 339-346.	Review
39	大嶋 雄一郎	愛知医科大学皮膚科	日本初の爪白癬外用剤エフィナコナゾールの有効性と肥厚した爪白癬に対するグラインダーとの併用について	加齢皮膚医学セミナー：2022.6；17（1）；17-22.	Review
40	渡辺 大輔	愛知医科大学皮膚科	【ウイルスと皮膚疾患-新しい考え方】(Part2.)治療とワクチン　日常診療での工夫とアップデート　帯状疱疹ワクチンについて	Visual Dermatology：2022.9；21（10):999-1001.	Review
41	大嶋 雄一郎	愛知医科大学皮膚科	【最近のトピックス2022】皮膚疾患治療のポイント原発性腋窩多汗症に対するソフピロニウム(エクロック®ゲル)の有効性	臨床皮膚科：2022.4;76（5）:127-130	Review
42	渡辺 大輔	愛知医科大学皮膚科	【コロナ禍の皮膚科日常診療】ワクチンとは何か?皮膚科的副反応について	Derma：2022.5;322:9-17	Review
43	渡辺 大輔	愛知医科大学皮膚科	【マイナーエマージェンシー　外来診療・一人当直に強くなる!いざというときの対処法】口腔外科的minor emergency　口唇ヘルペス	Medical Practice：2022.4;39巻臨増:238-239.	Review
44	高橋靖弘	愛知医科大学病院　眼形成・眼窩・涙道外科	眼瞼けいれんに対するリオラン筋無力化併用眼輪筋切除術	OCULISTA 2022 Apr;109:49-55	Review
45	柿崎裕彦	愛知医科大学病院　眼形成・眼窩・涙道外科	上眼瞼下垂、下眼瞼内反症の再手術時の注意点	眼科手術 2022 Oct;35(4):511-6.	Review
46	柿崎裕彦	愛知医科大学病院　眼形成・眼窩・涙道外科	新規保険収載手術を知る眼瞼下制筋前転法術開発秘話	日本の眼科 2022 Aug;93(8):1124-7.	Review

計 46 件

（注） 1　当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

（様式第 3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3　高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1)倫理審査委員会の開催状況

①　倫理審査委員会の設置状況	有・無
②　倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・　手順書の主な内容 ●倫理審査業務手順書（委員向け） →総則，用語の定義，審査の流れ，医学部長の責務，医学部長等の責務，倫理委員会の役割・責務，専門委員会の役割・責務 ●倫理審査申請者標準業務手順書（研究者向け） →基本的事項，研究者等の責務，研究の適正な実施等，インフォームド・コンセント等，研究により得られた結果等の取り扱い，研究の信頼性確保，重篤な有害事象への対応，個人情報等，試料及び死者の試料・情報に係る基本的責務	
③　倫理審査委員会の開催状況	年12回

（注）　1　倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に〇印を付けること。
　　2　前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

①　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
②　利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・　規定の主な内容 1　利益相反委員会規程：利益相反を審査し，適切に管理・検討するための委員会規程 2　利益相反規程：利益相反の管理に関する規程	
③　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年１回

（注）前年度の実績を記載すること。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

①　臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年１回
・研修の主な内容 １　「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針について」 講師：渡辺大輔教授（医学部倫理委員会委員長） 開催日：令和５年３月27日	

（注）前年度の実績を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

愛知医科大学病院内科専門医プログラム　愛知医科大学小児科研修医（専攻医）プログラム　愛知医科大学皮膚科研修プログラム　愛知医科大学精神科領域専門医研修プログラム　愛知医科大学外科専門研修プログラム　愛知医科大学整形外科専門研修プログラム　愛知医科大学産婦人科専門研修施設群専門研修プログラム　愛知医科大学眼科専門研修プログラム　愛知医科大学病院耳鼻咽喉科専門研修プログラム　愛知医科大学泌尿器科専門研修施設群専門研修プログラム　脳神経外科専門研修愛知医科大学プログラム　愛知医科大学病院放射線科専門研修プログラム　愛知医科大学病院麻酔科専門研修プログラム　愛知医科大学医学部病理専門研修プログラム　愛知医科大学臨床検査専門研修プログラム　愛知医科大学救急専門医育成プログラム　愛知医科大学形成外科専門研修プログラム　愛知医科大学リハビリテーション科専門研修プログラム　愛知医科大学総合診療専門医プログラム

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2　研修の実績

上記研修を受けた医師数	155　人

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診　療　科	役　職　等	臨床経験年数	特　記　事　項
春日井邦夫	内科	教授	38年	消化管内科, 内視鏡センター
伊藤清顕	内科	教授	27年	肝胆膵内科
天野哲也	内科	教授	34年	循環器内科
伊藤　理	内科	教授	29年	呼吸器･アレルギー内科, 臨床研究支援センター
高木潤子	内科	教授	29年	内分泌・代謝内科
道勇　学	内科	教授	38年	神経内科, 脳卒中センター
石本卓嗣	内科	教授	26年	腎臓･リウマチ膠原病内科, 総合腎臓病センター
高見昭良	内科	教授	32年	血液内科, 造血細胞移植センター, 輸血部, 細胞治療センター
神谷英紀	内科	教授	28年	糖尿病内科, 糖尿病センター
宮田　淳	精神科, 神経科	教授	24年	精神神経科, こころのケアセンター
奥村彰久	小児科	教授	34年	小児科, てんかんセンター
佐野　力	外科	教授	37年	消化器外科, 腹部ヘルニアセンター

松山克彦	心臓血管外科	教授	32年	心臓外科
児玉章朗	心臓血管外科	教授	26年	血管外科
福井高幸	呼吸器外科	教授	25年	呼吸科外科, 臨床工学部
中野正吾	外科	教授	32年	乳腺・内分泌外科
小林孝彰	外科	教授	38年	腎移植外科
宮地　茂	脳神経外科	教授	40年	脳神経外科, 脳血管内治療センター
高橋伸典	整形外科	教授	26年	整形外科, 人工関節センター, スポーツ医科学センター
渡辺大輔	皮膚科	教授	30年	皮膚科
佐々直人	泌尿器科	教授	32年	泌尿器科
若槻明彦	産婦人科	教授	39年	産科・婦人科，周産期母子医療センター
瓶井資弘	眼科	教授	35年	眼科
柿崎裕彦	眼科	教授	27年	眼形成･眼窩･涙道外科
藤本保志	耳鼻咽喉科	教授	33年	耳鼻咽喉科･頭頸部外科, 頭蓋底外科センター, 総合物流センター
鈴木耕次郎	放射線科	教授	27年	放射線科, 中央放射線部
野手英明	麻酔科	教授	16年	麻酔科, 周術期集中治療部，中央手術部，中央材料部
前川正人	内科	教授	38年	総合診療科
古川洋志	形成外科	教授	32年	形成外科
渡邉栄三	救急科	教授	26年	救命救急科, 救命救急センター
尾川貴洋	リハビリテーション科	教授	16年	リハビリテーション科, リハビリテーション部
篠邉龍二郎	内科	教授	33年	睡眠科, 睡眠医療センター
三鴨廣繁	内科	教授	34年	感染症科, 感染制御部
都築豊徳	病理診断科	教授	34年	病理診断科, 病院病理部
牛田享宏	整形外科	教授	32年	疼痛緩和外科
風岡宜暁	歯科口腔外科	教授	39年	歯科口腔外科
中山享之	内科	教授	30年	中央臨床検査部
加納秀記	救急科	教授	33年	救急診療部
西原真理	精神科，神経科	教授	30年	いたみセンター
山田恭聖	小児科	教授	29年	周産期母子医療センター
久保昭仁	内科	教授	36年	臨床腫瘍センター, 臨床腫瘍センター（内科部門），ゲノム医療センター

岩田　崇	外科	准教授	20年	臨床腫瘍センター(外来化学療法部門)
森　直治	外科	教授	34年	緩和ケアセンター,栄養部,栄養治療支援センター
原　政人	脳神経外科	教授	35年	脊椎脊髄センター
宇佐美潤	内科	准教授	33年	プライマリーケアセンター
丹羽淳一	内科	教授	32年	医療福祉相談部
福沢嘉孝	内科	教授	39年	先制・統合医療包括センター
齋木英資	内科	教授	34年	パーキンソン病総合治療センター
佐々木誠人	内科	教授	34年	炎症性腸疾患センター
吉田昌弘	整形外科	教授	18年	骨盤・四肢外傷センター

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4　医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

①　医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
②　業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
③　他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

（注）1　高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

（注）2　「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

（様式第 5）

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	１．計画　［２．現状］
管理責任者氏名	医療情報部長　深津　博
管理担当者氏名	医事課　諏訪雄二郎　　病院管理課　永田大介 地域医療連携課　竹崎武　　医療情報管理課　宮城浩昭 薬剤部　大西正文　　医療安全管理室　神谷英紀 感染管理室　三鴨廣繁　　臨床工学部　福井高幸

			保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院管理課	外来カルテ・入院カルテともに,電子カルテとなっている。 病歴資料については一患者一番号でカルテと一体になっている。 診療録の院外持出しは認めていない。
		各科診療日誌	病院管理課	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	中央カルテ室	
		看護記録	中央カルテ室	
		検査所見記録	中央カルテ室	
		エックス線写真	サーバー	
		紹介状	中央カルテ室	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	中央カルテ室	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	病院管理課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院管理課	
		高度の医療の研修の実績	病院管理課	
		閲覧実績	医療情報管理課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染管理室	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理室	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療情報管理課	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報管理課	
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理室	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部	
		監査委員会の設置状況	医療安全管理室	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理室	
		職員研修の実施状況	医療安全管理室	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理室	
		管理者が有する権限に関する状況	総務・秘書室	
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務・秘書室	
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務・秘書室	

（注）「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

（様式第6）

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1．計画　　(2.)現状
閲覧責任者氏名	病院事務部長　市川光生
閲覧担当者氏名	病院管理課長　永田大介
閲覧の求めに応じる場所	・会議室又は諸記録閲覧室
閲覧の手続の概要 申し出があり次第，上長の承認を得てから閲覧する。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延　0　件
閲覧者別	医師	延　　件
	歯科医師	延　　件
	国	延　　件
	地方公共団体	延　　件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第１条の11第１項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・　指針の主な内容： １.安全管理のための基本的な考え方 ２.医療安全管理責任者の設置 ３.安全管理の体制確保のための委員会 ４.医療安全管理室の設置 ５.医療安全管理者の設置 ６.セーフティマネージャーの設置 ７.患者相談窓口の設置 ８.医薬品安全管理責任者等の設置 ９.医療機器安全管理責任者等の設置 10.医療放射線安全管理責任者等の設置 11.医療事故発生時の対応方法等 12.安全管理のための職員研修 13.高難度新規医療技術を用いた医療の提供 14.患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針	
②　医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・　設置の有無（　有・無　） ・　開催状況：年　12　回 ・　活動の主な内容： １.医療の安全管理対策の検討及び推進に関すること ２.病院において重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること ３.２の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知に関すること ４.３の改善のための方策の実施状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること ５.入院患者の死亡例，特異事例の報告状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること ６.５の報告状況が不十分な場合の研修・指導に関すること ７.医療の安全管理の情報交換に関すること ８.医療の安全管理のための教育・研修に関すること ９.その他医療の安全管理に関すること	
③　医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年　47　回
・　研修の内容（すべて）： １.医療安全講演会　（２回） ２.医薬品・医療機器・医療放射線安全講演会　（２回） ３.ＡＥＤを使用した心肺蘇生法　(25回) ４.エコーを使用したＣＶカテーテル挿入法　（１回） ５.ＰＩＣＣ研修　（２回） ６.臨床研修医ガイダンス「当院の医療安全管理体制」（１回） ７.新規採用医師ガイダンス　（１回）（指針・マニュアル等の研修） ８.中途採用職員（看護師除く）ガイダンス　（７回）（指針・マニュアル等の研修） ９.中途採用看護師ガイダンス（５回）（指針・マニュアル等の研修） 10.新規採用職員ガイダンス　（１回）（指針・マニュアル等の研修）	

④　医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況
・　医療機関内における事故報告等の整備　（　有・無　） ・　その他の改善のための方策の主な内容： １．医療安全管理マニュアルの改正 ２．転倒転落の防止対策による「推奨しない睡眠薬」の病棟常備薬の撤廃 ３．緊急コールが繋がらない場合の対応方法の周知

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の 11 第２項第１号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

①　院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・　指針の主な内容： 院内感染対策に関する基本的な考え方 院内感染のための委員会及び感染対策関連組織に関する基本的事項 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針 感染の発生状況の報告に関する基本方針 院内感染発生時の対応に関する基本方針 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 その他，院内感染対策推進のために必要な基本方針 本指針は，定期的に見直し，感染予防対策委員会の議を経て改正を行っている。	
②　院内感染対策のための委員会の開催状況	年　12　回
・　活動の主な内容： 毎月１回第２火曜日に定例開催し，次に掲げる事項の審議，報告を実施 感染予防対策の確立に関すること 感染予防の実施，監視及び指導に関すること 感染予防の教育に関すること 感染に関する事故等が発生した場合における原因究明に関すること 院内感染対策のための指針の策定及び変更 その他感染予防に関すること	
③　従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年　12　回
・　研修の内容（すべて）： 感染予防に関する講演会（年２回） キャリア・ディベロップメント講座（年７回） 新規採用者ガイダンス（年１回） 研修医オリエンテーション（年１回） 新規採用看護師オリエンテーション（年１回） 他に委託職員を対象に，新型コロナ感染症対策のための研修を都度実施	
④　感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・　病院における発生状況の報告等の整備　　（　有・無　） ・　その他の改善のための方策の主な内容： ＩＣＴによるラウンドの実施 リンクナースによる感染対策推進活動の実施 ＳＳＩサーベイランスの実施 ＩＣＵサーベイランスの実施 ＢＳＩサーベイランスの実施 全病院サーベイランスの実施 耐性菌サーベイランスの実施	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の11第２項第２号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
②　従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年　２　回
・　研修の主な内容： 「医薬品副作用救済制度」（令和４年８月15月～９月16日） 「麻薬返却時の注意点」（令和５年３月15日～３月31日）	
③　医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・　手順書の作成　　（　有・無　） ・　手順書の内訳に基づく業務の主な内容： １．医薬品の採用と医薬品購入 ２．医薬品の管理に関すること ３．患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関すること ４．患者に対する与薬および薬剤管理指導業務に関すること ５．医薬品の安全使用に係わる情報収集・管理・提供に関すること ６．在宅患者への医薬品使用に関すること ７．他施設との連携に関する事項 ８．医薬品の安全使用のための業務手順書に関する研修に関すること ９．未承認新規医薬品等の適正使用に関すること	
④　医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・　医薬品に係る情報の収集の整備　　（　有・無　） ・　未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： ・　その他の改善のための方策の主な内容：	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の11第２項第３号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
②　従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年　60　回
・　研修の主な内容： １．人工呼吸器（取り扱い・管理・トラブルシュート） ２．透析装置（取り扱い・管理・トラブルシュート） ３．除細動器（取り扱い・管理・トラブルシュート） ４．補助循環（取り扱い・管理・トラブルシュート） ５．その他医療機器 ６．新規採用看護師医療機器研修 ７．新規採用研修医医療機器研修	
③　医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・　医療機器に係る計画の策定　（　有・無　） ・　機器ごとの保守点検の主な内容： 中央管理している医療機器については，一患者一使用ごとに使用後点検を実施している。それぞれに定期点検計画を作成し，それに基づき定期点検を実施している。	
④　医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・　医療機器に係る情報の収集の整備　（　有・無　） ・　未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：特記事項無し ・　その他の改善のための方策の主な内容： あいちMACT（Monitor Alarm Control Team）と協働し，患者モニタの適正使用やアラーム削減への取り組みを開始した。実績として，院内採用心電図電極の統一を行い選定基準やコストダウンを実現した。また，あいちMACTとモニタ適正使用について検討し，全病院職員を対象に令和５年度勉強会を計画した。	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第９条の２０の２第１項第１号から第１３号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無

・責任者の資格（医師・歯科医師）
・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況

・医療安全管理責任者は，医療安全，医薬品安全，医療機器安全及び医療放射線安全について必要な知識を有する副院長（医療安全担当）をもって充てている。
・医療安全管理責任者は，副院長として病院長の医療安全管理業務を補佐している。
・医療安全管理責任者は，医療安全管理室の室長として医療安全管理部門を統括している。
・医療安全管理室員，医薬品安全管理責任者，医療機器安全管理責任者，医療放射線安全管理責任者を構成員とする医療安全管理部門会議を毎週開催し，院内の医療安全に関する情報の収集，改善方策の検討，指示等を行っている。
・医療安全管理委員会の委員長となっている。
・医療事故発生時の医療問題検討会の委員長となっている。

② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（17名）・無

③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況

・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況

・医薬品・医療機器等安全性情報と DSU は全病院職員にメールをしている。

・回収案内に対して迅速に行動している（全病院職員にメール，院内にある在庫の回収等）

・副作用情報の収集を行い，医療安全・院長・PMDA へ報告を行っている。

・薬剤部員に対して，新規採用医薬品や限定購入医薬品の薬の情報を伝える。

・供給制限に関する情報を迅速に行動している。（全病院職員へメール，代替品の検討）

・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況

以下の方法にて未承認等の医薬品の使用状況を把握し，④⑤⑥については必要がある場合には未承認新規医薬品等評価部門への申請を依頼。

① 診療科からの未承認新規医薬品等評価部門への申請

② 医師からの使用成績報告書の提出

③ 院内製剤の処方歴

④ 病棟担当薬剤師からの情報提供

⑤ 調剤室，注射室担当薬剤師からの情報提供

⑥ 薬剤部（DI 室，未承認新規医薬品等評価部門等）への問い合わせ

・担当者の指名の有無（有・無）

未承認新規医薬品等評価部門長	大西正文
未承認新規医薬品等評価部門委員	牛田享宏，前川正人，大嶋雄一郎，福井高幸，勝啓佑，金田直樹，塩田有史，宇野英理子，黒瀬優輔，杉木壮吉
未承認新規医薬品等評価部門事務局	堀田和男，深谷さおり
未承認新規医薬品等評価委員会委員長	牛田享宏
未承認新規医薬品等評価委員	前川正人，大嶋雄一郎，久保昭仁，神谷英紀，中村信津子

・担当者の所属・職種：

大西正文	（所属：薬剤部，職種：薬剤師）
牛田享宏	（所属：疼痛緩和外科，職種：医師）
前川正人	（所属：総合診療科，職種：医師）
大嶋雄一郎	（所属：皮膚科，職種：医師）
福井高幸	（所属：呼吸器外科，職種：医師）
勝　啓佑	（所属：臨床工学部，職種：臨床工学技士）
金田直樹	（所属：中央放射線部，職種：診療放射線技師）
塩田有史	（所属：薬剤部，職種：薬剤師）
宇野英理子	（所属：薬剤部，職種：薬剤師）
黒瀬優輔	（所属：薬剤部，職種：薬剤師）
杉木壮吉	（所属：薬剤部，職種：薬剤師）
堀田和男	（所属：薬剤部，職種：薬剤師）
深谷さおり	（所属：薬剤部，職種：薬剤師）
久保昭仁	（所属：臨床腫瘍センター，職種：医師）
神谷英紀	（所属：医療安全管理室，職種：医師）
中村信津子	（所属：薬剤部，職種：薬剤師）

④　医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無

・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無　　（　有・無　）

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：

【遵守状況の確認】

・医療安全管理院内小ラウンド及び全体ラウンドにおいて，スタッフにヒアリング，指導を実施。また，患者カルテにて説明・同意書の内容，同意取得時の患者家族の理解度についての記載を確認。

【指導の主な内容】

・Ｉ・Ｃの手順が規程どおりに進められているか。

・Ｉ・Ｃの説明内容が規程どおりとなっているか。

・説明書及び同意書に規程どおり必要項目は網羅されているか。

・説明書及び同意書が規程どおり必要な診療行為かどうか。

・説明書及び同意書の出力，署名，保存方法は規程どおり適切かどうか。

・Ｉ・Ｃの実施状況についての職員研修会での指導。

⑤　診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

・診療録の記載内容の定期的な確認

・不十分な事例に対する指導

・診療録の適切な管理に関すること

・院内関連部署への通知

・職員研修等の実施

・診療録管理委員会の開催

⑥　医療安全管理部門の設置状況	有・無

・所属職員：専従（10）名、専任（　）名、兼任（３）名

うち医師：専従（１）名、専任（　）名、兼任（３）名

うち薬剤師：専従（１）名、専任（　）名、兼任（　）名

うち看護師：専従（３）名、専任（　）名、兼任（　）名

（注）報告書を提出する年度の 10 月１日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

１. 医療の安全を確保するための改善方策に関すること

２. 医療安全管理のための職員の教育・啓発に関すること

３. 医療事故発生時の対応に関すること

４. 医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握

５. 職員の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認

６. 医療安全管理委員会の円滑な運営に関すること

７. 医療安全管理に関する院内の連絡調整

８. その他医療安全管理に関する業務

※　平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※　医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦　高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況
・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（133 件）、及び許可件数（132 件） ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（　有・無　） ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（　有・無　） ・活動の主な内容： ・診療科の長から高難度規程第 5 条第 1 項の規程に基づく申請が行われた場合において，当該申請の内容を確認するとともに，高難度新規医療技術評価委員会（以下「委員会」という）に対して当該高難度新規医療技術の提供の適否，実施を認める条件等について意見を求めること ・高難度新規医療技術の提供の適否，実施を認める条件等についての意見の求めに応じ，委員会が述べた意見を踏まえ，当該高難度新規医療技術の提供の適否等について決定し，申請を行った診療科の長に対しその結果を適否結果通知書により通知すること ・高難度規程に基づき，定期的に，及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には，その都度診療録等の記載内容を確認し，当該高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうか，職員の遵守状況を確認すること ・高難度新規医療技術の提供の適否等について決定したとき，及び前号により職員の遵守状況を確認したときは，その内容について病院長に報告すること ・委員会での審査資料及び議事概要並びに職員の遵守状況の確認記録を審査の日又は確認の日から少なくとも５年間保存すること ・委員会に係る事務を行うこと ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（　有・無　） ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（　有・無　）

⑧　未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況
・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（19 件）、及び許可件数（19 件） ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（　有・無　） ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（　有・無　）

・活動の主な内容：

・未承認新規医薬品等使用申請の内容確認，評価委員会への審議依頼，使用の適否等の決定，申請資料・調査資料等の保管

・申請医薬品使用患者のカルテ・遵守状況等の確認，使用成績報告書の確認

・上記内容につき院長への報告書を適宜作成，月間報告書の作成

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ）

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 （ 有・無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 509 件

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 11 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

１．入院患者の死亡例，特異事例の報告状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること

２．１の報告状況が不十分な場合の研修・指導に関すること

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（ 有（病院名：関西医科大学附属病院）・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ 有（病院名：関西医科大学附属病院）・無）

・技術的助言の実施状況

１ インシデント報告において，医師の報告割合が相対的に低下し，特に研修医からの報告が十分でないため，医師からの報告数が全体の 10%，研修医の報告数が年間 10 件が定常的に到達できるよう取り組むよう助言があった。

⇒ 研修医には，報告する意義や大切さについて勉強会を開催し，報告促進している。
研修医以外の医師に対しては，病院長インセンティブに報告率を組み込み，報告促進している。

２ 持参薬ごとに使用期間が異なると，院内調剤への切り替え時に誤った配薬が行われるリスクがあるため，持参薬のルールを明確にするよう助言があった。

⇒ 病院長及び医療安全管理委員会において持参薬の院内ルールの作成を行っている。

⑪　当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況
・体制の確保状況 ①　患者相談窓口を中央棟１階 15 番窓口に設置している。 ②　担当者は，看護師，薬剤師，社会福祉士又はその他医療有資格者等としている。 ③　責任者は，医療安全管理責任者（医療安全担当副院長）としている。 ④　対応時間は，月曜日から金曜日（祝日・休日・年末年始を除く）午前８時 30 分から午後５時 15 分までとしている。 ⑤　患者・家族等からの苦情・相談については病院長に報告するとともに，関係部署に対しても報告し，速やかな解決に向けた連絡調整を行っている。 ⑥　担当者及び関係者の守秘義務について医療安全管理マニュアルに明記している。 （医療安全管理マニュアル　015　患者相談窓口設置要綱　に明記） ⑦　担当者及び関係者は，苦情・相談により患者や家族が不利益を受けないよう適切な配慮をしなければならないことを医療安全管理マニュアルに明記している。 （医療安全管理マニュアル　015　患者相談窓口設置要綱　に明記） ⑧　担当者及び関係者は，患者，家族等からの苦情・相談内容の秘密保護に努めなければならないことを医療安全管理マニュアルに明記している。 （医療安全管理マニュアル　015　患者相談窓口設置要綱　に明記） ⑨　患者相談窓口があることについて，ホームページ，院内掲示や入院・外来パンフレットにより患者・家族に案内している。

⑫　職員研修の実施状況
・研修の実施状況 ○　医療安全管理に係る職員研修実施要領において，研修項目として次の事項を定めている。 《医療安全管理に関する職員研修》 ・　インシデント報告，アクシデント報告等の流れ，医療安全に係る具体的事例の改善策等に関する事項 ・　インフォームド・コンセントの適切な実施に関する規程の遵守状況に関する事項 ・　診療録管理規程の遵守状況に関する事項 ・　職員の安全意識の状況に関する事項 ・　医療安全に資する診療内容のモニタリングに関する事項

・　高難度新規医療技術の提供に関する規程の遵守状況に関する事項
・　未承認新規医薬品等の使用に関する規程の遵守状況に関する事項
・　医療安全の確保に関する監査委員会からの意見に関する事項
・　全死亡例報告，特異事例報告に関する事項
・　私立大学病院相互ラウンドに関する事項
・　患者相談に関する事項
・　病院機能評価による評価を踏まえた医療安全の確保に必要な措置に関する事項
・　医療安全に関する情報提供受付窓口の使用方法に関する事項
・　医師，歯科医師，薬剤師，看護師その他の職員が連携及び協働して医療を提供するために必要な知識及び技能であって，高度の医療を提供するために必要な事項

《医薬品の安全使用に関する職員研修》

・　医薬品の有効性・安全性に関する情報、使用方法に関する事項
・　医薬品の安全使用のための業務に関する手順書に関する事項
・　医薬品による副作用等が発生した場合の対応(施設内での報告、行政機関への報告等)に関する事項

《医療機器の安全使用に関する職員研修》

・　新しい医療機器の導入時の研修
・　医療機器の有効性・安全性に関する事項
・　医療機器の使用方法に関する事項
・　医療機器の保守点検に関する事項
・　医療機器の不具合等が発生した場合の対応(院内での報告、行政機関への報告等)に関する事項
・　医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項

○　開催頻度は，医療安全管理に関する職員研修は年に2回程度。医薬品・医療機器の安全使用に関する職員研修は必要に応じて実施しており，病院長等の講義，院内での報告会，事例分析，外部講師を招聘しての講習，外部の講習会・研修会の伝達報告会又は有益な文献の抄読等の方法によって行う。

○　医療安全管理に関する職員研修に欠席した職員については，DVD鑑賞，e-learning等を活用して，全ての病院職員に研修内容の周知を図っている。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況
・研修の実施状況 管理者： 令和５年２月２日 特定機能病院管理者研修受講（公益財団法人　日本医療機能評価機構） 医療安全管理責任者： 令和４年 11 月 11 日 特定機能病院管理者研修受講（公益財団法人　日本医療機能評価機構） 医薬品安全管理責任者： 令和４年 12 月７日 特定機能病院管理者研修受講（公益財団法人　日本医療機能評価機構） 医療機器安全管理責任者： 令和４年 12 月７日 特定機能病院管理者研修受講（公益財団法人　日本医療機能評価機構）

（注）前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況
・第三者による評価の受審状況 公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する一般病院３の認定を受けている。 （認定期間：2022 年５月６日から 2025 年 10 月 16 日まで） ・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況 ホームページにて公表している。 ・評価を踏まえ講じた措置 職員を対象とした心肺蘇生訓練について，受講率の向上に取り組むよう指摘を受けたため，全病院職員が BLS 研修を受講するよう計画を策定し，実施している。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第７条の２の２第１項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

・ 基準の主な内容
　１　臨床医学部門の教授（大学附属施設，医学部附属施設及び研究所の臨床医学系教授を含む。）であること
　２　医療安全管理業務の経験，患者安全を第一に考える姿勢・指導力等の医療の安全の確保のために必要な資質及び能力を有すること
　３　医療機関等における経営管理に関する識見並びに組織管理経験等を含んだ組織管理能力等の病院を管理運営する上で必要な資質及び能力を有すること
　４　病院が懸案とする当面の課題を解決する意欲及び能力を有すること
・ 基準に係る内部規程の公表の有無（　有・無　）
・ 公表の方法
　ホームページにて公表している。

規則第７条の３第１項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・無

・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（　有・無　）
・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（　有・無　）
・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（　有・無　）
・ 公表の方法
　ホームページにて公表している。

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長（〇を付す）	選定理由	特別の関係
祖父江　元	愛知医科大学	〇	本学理事長	有・無
祖父江　元	〃		本学学長	有・無
笠井　謙次	〃		本学医学部長	有・無
坂本真理子	〃		本学看護学部長	有・無
島田　孝一	〃		本学法人本部長	有・無
羽根田雅巳	〃		本学事務局長	有・無
伊藤　恭彦	〃		本学常任理事	有・無
羽生田正行	〃		本学常任理事	有・無
岡山　政由	医療法人社団喜峰会		学識経験者のうちから理事会において選任した者（病院経営に関する高い識見を有している。）	有・無
野田賢次郎	税理士法人コスモス		学識経験者のうちから理事会において選任した者（病院経営に関する高い識見を有している。）	有・無

規則第９条の２３第１項及び第２項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有・無

・合議体の主要な審議内容

一　病院の運営方針に関すること。
二　病院の中期計画に関すること。
三　病院内の諸規則及び制度の制定及び改廃に関すること。
四　各種の委員会の設置及び改廃に関すること。
五　病院の予算及び決算に関すること。
六　病院職員の人事に関すること。ただし，病院事務職員は除く。
七　病室及び病床等の運用に関すること。
八　医学部学生，看護学生等の臨床実習に関すること。
九　臨床研修医の研修に関すること。
十　その他病院の運営に関する重要事項

・審議の概要の従業者への周知状況

医局長会，看護師長会，業務連絡会等を通じて周知している。

・合議体に係る内部規程の公表の有無（　有・無　）
・公表の方法

・外部有識者からの意見聴取の有無（　有・無　）

合議体の委員名簿

氏名	委員長（〇を付す）	職種	役職
道勇　学	〇	医師	病院長
天野哲也		医師	副院長
加納秀記		医師	副院長
牛田享宏		医師	副院長
都築豊徳		医師	副院長
藤本保志		医師	副院長
中野正吾		医師	副院長
神谷英紀		医師	副院長
井上里恵		看護師	副院長
三木篤也		医師	眼科クリニック MiRAI クリニック長
羽生田正行		医師	メディカルセンター病院長
春日井邦夫		医師	部長（消化管内科）

伊藤清顕		医師	部長（肝胆膵内科）
伊藤　理		医師	部長（呼吸器・アレルギー内科）
石本卓嗣		医師	部長（腎臓・リウマチ膠原病内科）
高見昭良		医師	部長（血液内科）
宮田　淳		医師	部長（精神神経科）
奥村彰久		医師	部長（小児科）
佐野　力		医師	部長（消化器外科）
松山克彦		医師	部長（心臓外科）
児玉章朗		医師	部長（血管外科）
福井高幸		医師	部長（呼吸器外科）
小林孝彰		医師	部長（腎移植外科）
宮地　茂		医師	部長（脳神経外科）
高橋伸典		医師	部長（整形外科）
渡辺大輔		医師	部長（皮膚科）
佐々直人		医師	部長（泌尿器科）
若槻明彦		医師	部長（産科･婦人科）
瓶井資弘		医師	部長（眼科）
柿崎裕彦		医師	部長（眼形成・眼窩・涙道外科）
鈴木耕次郎		医師	部長（放射線科）
野手英明		医師	部長（麻酔科）
前川正人		医師	部長（総合診療科）
古川洋志		医師	部長（形成外科）
渡邉栄三		医師	部長（救命救急科）
尾川貴洋		医師	部長（リハビリテーション科）
篠邉龍二郎		医師	部長（睡眠科）
三鴨廣繁		医師	部長（感染症科）
風岡宜暁		医師	部長（歯科口腔外科）
中山享之		医師	部長（中央臨床検査部）
西原真理		医師	部長（いたみセンター）
山田恭聖		医師	部長（周産期母子医療センター）
久保昭仁		医師	部長（臨床腫瘍センター）
岩田　崇		医師	部長（臨床腫瘍センター）
森　直治		医師	部長（緩和ケアセンター）
原　政人		医師	部長（脊椎脊髄センター）
宇佐美潤		医師	部長（プライマリケアセンター）
丹羽淳一		医師	部長（医療福祉相談部）
福沢嘉孝		医師	部長（先制・統合医療包括センター）

齋木英資		医師	部長（パーキンソン病総合治療センター）
佐々木誠人		医師	部長（炎症性腸疾患センター）
吉田昌弘		医師	部長（骨盤・四肢外傷センター）
奥村将年		医師	部長（NP 部）
深津　博		医師	部長（医療情報部）
大西正文		薬剤師	部長（薬剤部）
市川光生		事務職員	部長（病院事務部）
矢内亨扶		事務職員	部長（医事管理部）

規則第１５条の４第１項第１号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限
・　管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（　有・無　） ・　公表の方法 ・　規程の主な内容 １　「事務決裁規程」等において，病院長の人事権限等を明確化している。 ２　「法人の経理に関する権限の委任及び専決の取扱基準」において，病院長の予算執行権限を明確化している。 ・　管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割 職名：副院長 役割： 一　病院の経営企画に関すること 二　医療安全管理・院内感染対策に関すること 三　地域医療連携に関すること 四　がんに関する診療連携等の統括・推進に関すること 五　卒後臨床研修・専門医制度に関すること 六　病院の広報に関すること 七　救急医療・災害医療に関すること 八　医療情報の管理・運用に関すること 九　チーム医療に関すること 十　看護に関すること 十一　その他病院長が必要と認めた業務 ・　病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況 年１回，各職種の管理職以上を対象とした「病院経営人材育成研修会」を開催している。

規則第１５条の４第１項第２号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	有・無

・監査委員会の開催状況：年　２　回

・活動の主な内容：

・医療安全管理責任者，医療安全管理部門，医療安全管理委員会，医薬品安全管理責任者，医療機器安全管理責任者，医療放射線安全管理責任者等の業務の状況について病院長等から報告を求め，又は必要に応じて自ら確認を実施すること。

・必要に応じ，理事長又は病院長に対し，医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を表明すること。

・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（　有・無　）

・委員名簿の公表の有無（　有・無　）

・委員の選定理由の公表の有無（　有・無　）

・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（　有・無　）

・公表の方法：

ホームページにて公表している。

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長（〇を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
黒神聰	愛知学院大学名誉教授	〇	法律学に関する専門知識に基づいて，教育，研究又は業務を行っている者	有・無	1
金森俊輔	瀬戸旭医師会会長		医療機関において医療安全に関する業務に従事した経験を持つ者又は医療安全に係る研究に従事した経験を有する者	有・無	1
鈴木孝美	長久手市・副市長		医療等の内容及び説明並びに同意文書が一般的に理解できる内	有・無	2

			容であるか等，医療を受ける立場から意見を述べることができる者		
祖父江元	愛知医科大学		愛知医科大学学長	有・無	３
笠井謙次	愛知医科大学		愛知医科大学医学部長	有・無	３
				有・無	

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第１５条の４第１項第３号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況
・体制の整備状況及び活動内容 業務活動が法令並びに本学の方針，計画，制度及び諸規則に準拠し，適正に行われているか監査する体制が整っている。 ・ 専門部署の設置の有無（ 有・無 ） ・ 内部規程の整備の有無（ 有・無 ） ・ 内部規程の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法

規則第１５条の４第１項第３号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 病院の管理運営状況の監督については，病院の開設者である理事長を含む常任理事会が，定期的に報告される病院運営状況について検討を行い，必要に応じて理事会に報告を行っている。 ・ 会議体の実施状況（　年 30 回　） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（　有・無　）（　年 30 回　） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（　有・無　） ・ 公表の方法
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：
会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 （○を付す）	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

（注）　会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第１５条の４第１項第４号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有・無 ） ・通報件数（年 ０ 件） ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ 有・無 ） ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有・無 ） ・周知の方法 職員用ホームページにて周知している。

（様式第 7）

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1　果たしている役割に関する情報発信

①　果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 方法：リーフレットの配布・掲示，ホームページ，病院広報誌など 内容：当院の医療連携上の役割，前方，後方連携の協力要請など	

2　複数の診療科が連携して対応に当たる体制

①　複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 外来において，循環器内科と心臓外科・血管外科，消化管内科・肝胆膵内科と消化器外科などの関連する診療科を同じブロックに配置し，共同診療に配慮している。 診療科間で依頼箋により情報交換し，専門分野の診療を共同して行っている。入院診療においては，共同カンファレンスを行って診療している。 疾患の必要に応じて，複数の診療科による共同の手術を行っている。 救命救急センターにおいて，救命救急科と専門診療科が毎朝カンファレンスを行い，連携して診療に当たっている。	